

TAISHO UNIVERSITY

Curriculum Guide 2023



大正大学
履修要項 2023

TAISHO UNIVERSITY

Curriculum Guide

2023

目次

Curriculum Guide 2023

はじめに	4
------	---

- 1** 学期・学修期間
- 2** 授業時間
- 3** 休講・補講
- 4** 遅刻・欠席
- 5** 公共交通機関の遅延
- 6** 欠席事由証明
- 7** 緊急時における授業の取り扱い

履修にあたって	7
---------	---

- 1** 履修・単位
- 2** 試験
- 3** 成績
- 4** 進級・留年・退学・除籍
- 5** 卒業
- 6** 卒業論文・卒業研究
- 7** 転学部・転学科・転コース
- 8** 留学、海外文化・語学研修

教育課程の構造	20
---------	----

第Ⅰ類科目 教育目標／授業科目一覧	22
-------------------	----

探究実証系

第Ⅱ類科目 ディプロマポリシー／履修系統図 授業科目一覧	22
------------------------------	----

- 仏教学部
- 仏教学科 仏教学コース
- 仏教学科 宗学コース
- 仏教学科 国際教養コース
- 仏教学科 仏教文化遺産コース
- 心理社会学部
- 人間科学科
- 臨床心理学科

文 学 部	51
人文学科 哲学・宗教文化コース	52
人文学科 国際文化コース	54
日本文学科	58
歴史学科 日本史コース	62
歴史学科 東洋史コース	64
歴史学科 文化財・考古学コース	66

第Ⅲ類科目

第Ⅲ類科目の履修方法	70
第Ⅲ類科目一覧	72

社会創造系

第Ⅱ類科目 ディプロマポリシー／履修系統図 授業科目一覧

社会共生学部	79
公共政策学科	80
社会福祉学科	84
表現学部	91
表現文化学科	92
地域創生学部	97
地域創生学科	98

第Ⅲ類科目

第Ⅲ類科目の履修方法	102
第Ⅲ類科目一覧	103
FAQ	105

規程（大正大学履修規程／大正大学試験規程／大正大学学則（抜粋））

「履修要項」は読むガイドです。

「履修要項2023」は2023年度入学生を対象としたものです。
卒業するまで使用します。大切に保管してください。

■はじめに

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

大学では自ら積極的に学び、学修する姿勢が大切です。

本冊子は、4年間の履修計画を立て卒業までに必要な科目（単位）を修得するための手引です。

十分に活用してください。

授業日程や開講科目の変更、学則等規則の変更点については、「当該年度のガイダンス資料」を確認してください。

1 学期・学修期間

1年間を2つに区分し、前半を「春学期」、後半を「秋学期」とします。

■セメスター制

学修期間では、学期の1つひとつをセメスターと呼び、セメスターごとに履修します。

4年間、8セメスターで学修する制度です。

■クオーター制

1セメスターの学修期間をさらに2つに区分し、1つひとつをクオーターと呼びます。

4年間、16クオーターで学修する制度です。

2 授業時間

1回の授業時間は、100分です。

■授業時間帯

1 時 限	9 : 00 ~ 10 : 40
2 時 限	10 : 50 ~ 12 : 30
昼 休 み	12 : 30 ~ 13 : 20
3 時 限	13 : 20 ~ 15 : 00
4 時 限	15 : 10 ~ 16 : 50
5 時 限	17 : 00 ~ 18 : 40

■授業時間帯

N 1	18 : 00 ~ 19 : 40
N 2	19 : 50 ~ 21 : 30

3 休講・補講

授業の担当教員が公務、病気等のやむを得ない事情で授業ができなくなった場合は、休講となります。

その場合は、補講を行います。

■休講の確認方法

T-Poの「教務／授業関連」→「休講・補講・教室変更」→「休講・補講参照」に掲載されます。

ただし、担当教員から教務課へ届け出がなかった場合は、掲載されません。

急病等で事前に告知できない場合は、授業直前の掲載になります。

※休講の掲示や連絡がなく、授業開始から30分を過ぎても担当教員が教室に現れない場合は、教務課へ申し出て指示を受けてください。

■補講の確認方法

T-Poの「教務／授業関連」→「休講・補講・教室変更」→「休講・補講参照」に実施方法について掲載されます。

※補講に出席することができない場合は、直接担当教員に相談してください。

●T-Po

大正大学ポータルシステム【T-Po】は、インターネットが使える環境があれば、各種サービスを利用することができます。休講情報や履修に関する事項、時間割の変更等、学生に対する伝達事項がT-Poに掲示情報としてアップされます。こまめにT-Poを確認するようにしてください。

掲示情報を確認しなかったことを理由に、伝達事項に対する責任を免れることはできません。

掲示内容が理解できない場合には、直接教務部教務課窓口に問い合わせてください。電話やメールによる問い合わせは受け付けていません。

4 遅刻・欠席

単位認定を受けるためには、授業に毎回出席することが原則です。

■欠席・遅刻の場合

理由があり、授業を欠席・遅刻する（した）場合は、直接担当教員へ申し出てください。

教務課から教員へ連絡はしません。

遅刻・欠席の取り扱いについては担当教員の判断に委ねられているので、指示に従ってください。

5 公共交通機関の遅延

公共交通機関の遅延により、授業へ遅刻、欠席した場合は、使用した各交通機関の「遅延証明書」を受け取り、**担当教員へ直接提出してください**。教務課から教員への受け渡しはしていません。

遅刻・欠席の取り扱いについては担当教員の判断に委ねられているので、指示に従ってください。

（注意）路線バスは一般的に遅延証明書の発行を行いません。交通機関の乱れが予測される場合は、遅れを見込んで早く家を出る等の自衛手段をとってください。

6 欠席事由証明

下記に掲げる事由による欠席は、大学がその事由証明を行うことがあります。

証明書交付後、担当教員に提出してください。

証明書の取り扱いについては、当該科目の担当教員にゆだねられています。

内 容	担当部署
各種資格課程の学外学習及び実習等	教務課
担当教員が引率・指導する大学公認の学外学習、調査、見学、実技及び研修旅行	
忌引き（大学で定めた日数）	
大学が認めた課外活動	
骨髄バンク等移植に伴うドナー登録及び検査	学生課
学校保健安全法で定められている感染症による出席停止	
裁判員制度で裁判員として出廷する場合	

※上記理由により欠席をする場合は、事前に担当部署にて申請を行ってください。

※欠席事由証明書は欠席する授業の1週間前を目途とし学生自身が担当教員へ提出してください。なお試験の欠席は10ページを参考にしてください。

※出席停止の場合は改善後すみやかに申請を行ってください。

※各内容に対して証明できる書類が必要です。

7 緊急時における授業の取り扱い

交通機関の乱れや自然災害等、緊急事態が発生した際の本学の授業の取り扱いについては、以下の表のとおりです。

	午前6時段階	午前10時段階	午後2時段階
交通機関運行中止（※1）	1・2限休講	3・4限休講	5・N1・N2限休講
気象警報等（※2）	1・2限休講	3・4限休講	5・N1・N2限休講
大規模地震（※3）	1・2限休講	3・4・5・N1・N2限休講	-

（※1）首都圏JR、首都圏大手私鉄各社、東京メトロ、都営地下鉄のうち3社が全面的に運行中止の場合。

（※2）「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」または特別警報が東京23区東部もしくは西部に発令された場合。

（※3）該当時間において、警戒宣言解除及び判定会が解散されていない場合。

上記事態に伴う休講情報は大学ホームページでお知らせされますので、適宜確認してください

探究実証系

社会創造系

履修にあたって

1 履修・単位

2 試験

3 成績

4 進級・留年・退学・除籍

5 卒業

6 卒業論文・卒業研究

7 転学部・転学科・転コース

8 留学、海外文化・語学研修

1

履修・単位

履修登録をした授業科目の評価が達成目標に到達した場合、当該科目の単位が与えられます。

1. 履修登録

履修登録とは、その学期に履修しようとする科目をT-Po上で登録する手続きのことです。シラバス・時間割を確認し、十分に検討したうえで履修計画を立ててください。

●履修登録には、①T-Poの履修登録画面から行う方法と、②履修人数に制限があるため、事前登録画面から「抽選」や「先着」としてエントリーする方法があります。

●履修登録期間は、ガイダンス資料やT-Poで案内します。

登録日程をよく確認し、期間内に履修登録を完了してください。期間外の受付は行いません。

■履修登録上の注意

1. 履修登録（科目の追加・削除を含む）は、必ず履修登録期間中に行ってください。
2. 既単位修得済科目は、履修することはできません。
3. 自分の学年より、配当年次が上の科目を履修することはできません。
(例：2年次在籍時に3年次に配当されている科目を履修することはできません)
4. 履修希望者が多い場合は、授業の特性に鑑み、受講生を制限することがあります。
5. 時限重複や制限単位（1セメスター 24単位まで・フォーター制は別途定める）を超えて登録をした場合、登録画面上にエラーが表示されます。
エラー表示が出ている場合は、履修登録は完了できていません。表示されている内容に従い、**修正登録の期間に各自で登録、削除、変更を行ってください。**
6. 履修登録完了後は、必ず履修登録画面を印刷またはスクリーンショットをするなどし、記録として手元に残すようしてください。登録ができているか確認してください。確認を怠ったことによる履修登録期間外での登録、削除、変更は行いません。
7. 正しく登録できていない科目（時間割に反映されていない科目）については、授業に出席しても単位を修得することはできません。

2. 単位

授業の単位数は、すべて学則に定められています。単位は、その学習量、学び方にに基づき授業の種類・形態によって算出方法が異なります。教室での授業のほかに、教室外での事前事後学習の時間も含めて算出されています。なお、1単位につき45時間の学習が必要です。

セメスター制科目

■単位の算出方法

講義・演習科目	毎週2回 (100分授業×2) ×14週	4単位認定
	毎週1回 (100分授業×1) ×14週	2単位認定
実験・実習・実技・外国語	毎週1回 (100分授業×1) ×14週	1単位認定

クォーター制科目

■単位の算出方法

講義・演習科目	毎週2回 (100分授業×2) ×7週	2単位認定
	毎週1回 (100分授業×1) ×7週	1単位認定
実験・実習・実技・外国語	毎週1回 (100分授業×2) ×7週	1単位認定

3. 制限単位 (キャップ制)

学期・クォーターごとに無理なく単位を修得できるよう、履修できる単位数に上限を定めています。

■セメスター制における制限単位数

学年	1年次		2年次		3年次		4年次	
セメスター	第1	第2	第3	第4	第5	第6	第7	第8
学期	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
制限単位	24	24	24	24	24	24	24	24

■クォーター制における制限単位数

	学部学科	春学期		秋学期	
		第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
制限単位	・社会共生学部 公共政策学科 ・表現学部 ・地域創生学部	12	12	10	12
	・社会共生学部 社会福祉学科	12	12	12	12

※履修指導に基づき履修してください。

制限単位の計算方法

- ◆通年科目の単位数は、春学期・秋学期に等分して計算してください。
(例：通年4単位の科目は、春学期2単位、秋学期2単位という計算になります)

〈制限単位に含むもの〉

- ・第Ⅰ類科目 ・第Ⅱ類科目 ・第Ⅲ類科目

〈制限単位に含まないもの〉

- ・卒業論文、卒業研究 ・集中講義

※学科によっては異なる場合があるので確認すること。

2 試験

試験は、筆記・レポートあるいは口述試問によって実施します。

評価方法についてはシラバスを確認してください。大正大学では定期試験期間を設けていないため、各授業担当教員指示のもと授業内で実施します。巻末の「大正大学試験規程」もあわせて確認してください。

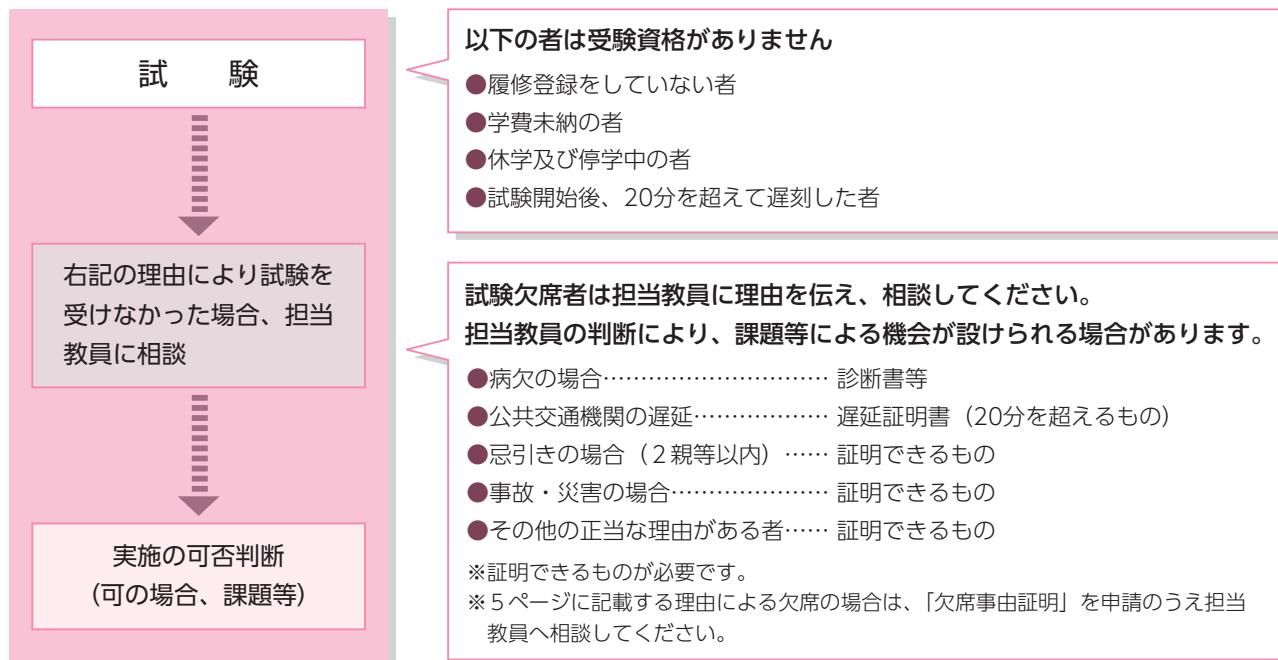
1. 試験種類と実施時期

試験	授業時間内で実施する試験
再試験	4年生最終学期に限り行う場合があります

2. 授業内試験

試験は授業時間内で行います。「受験資格」については以下のとおりです。

■試験の流れ



3. 試験の心得

- 学生証は常に携帯し、試験監督の求めに応じて提示してください。
- 答案用紙が配布され、試験監督より指示があり次第、学籍番号・氏名等所定の事項を記入してから試験を開始してください（試験場から答案用紙を持ち出すことはできません）。
- 携帯電話等の電源は必ず切ってください。
また、机上には許可された物以外は置くことができません。
- 試験への持込みは、許可されたもの以外は一切認めません。
また、「ノート持込み可」の場合のノートとは自筆のノートのみとし、コピーしたものは一切認めません。

4. 不正行為

試験は、学生各自の科目履修の成果を確認するものであり、その意に反する行為は不正行為とみなします。

試験監督の注意・指示に従わない場合は、その試験は無効とします。

不正行為があった場合は、学部長に報告したのち、代議員会の議を経て不正行為を行った者に対しては、**当該学期の履修科目すべてをE評価としたうえで、学則第61・62条（譴責、謹慎、停学、退学）により処分されます。**

以下の行為があった場合、不正行為とみなします。

- 試験場において監督者の指示に従わないとき
- 当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たとき
- 他人の答案を盗み見等のカンニング行為をしたとき
- 当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したとき
- 他人の答案又は成果物を複写もしくは盗用したとき

5. 課題の提出

授業で課された課題は、担当教員の指示に従い提出してください。

事務局は一切対応しません。 提出の指示があった場合は、必ず提出方法を確認し、提出期限を厳守しなければなりません。

授業での指示事項など、すべて自分で確認しなければなりません。提出方法、期日を授業内でよく確認してください。これらの確認を怠ったことによる不利益は、すべて自分自身が負うことになります。

3 成 績

授業の成績評価は、授業への取り組み・試験・レポート等を総合的に勘案して評価します。

成績評価は、以下のとおりAA、A、B、C、及びTを合格、D・Zは不合格とします。

1. GPA (学業平均値) 制度

授業ごとの成績評価に加え、GPA (Grade Point Average / 学業平均値) を算出します。

GPAは、一定期間の履修と学習の状況を掌握することによって、適切できめ細やかな履修や学修に関するアドバイスを可能とし、成績上位者を表彰する客観的なデータとして利用します。

2. GPAの算出方法

GPAは、下の算出例のとおりZ評価を含め、全ての履修科目を対象として算出しますので、履修登録を取り消す必要がある場合は、必ず修正登録期間中に修正してください。

■GPAの算出例

2単位の科目を3科目履修し、成績が〈AA・A・Z〉評価の場合のGPAと判定

$$\text{GPA} = \frac{\text{AA (4.0)} \times \text{単位数 (2)} + \text{A (3)} \times \text{単位数 (2)} + \text{Z (0)} \times \text{単位数 (2)}}{\text{登録総単位数 (不合格の科目の単位数も分母に加算)}}$$

↓

$$= \frac{4.0 \times 2 + 3 \times 2 + 0 \times 2}{6} = 2.33$$

3. 成績評価

判定	評語	ポイント	評価基準	
合 格	AA	4.0点	Excellent : 秀	目標を大きく超えて優秀
	A	3.0点	Very good : 優	目標を超えて優秀
	B	2.0点	Good : 良	目標を充分に達成している
	C	1.0点	Pass : 可	単位を認める最低限の基準に達している
	T	-	Recognition : 認定	目標を達している 本学の授業科目における合格判定（上記AA～Cを除く） 及び他大学等による単位認定
不 合 格	D	0.0点	Failure : 不可	単位を認める最低限の基準に達していない
	Z	0.0点	No learning : 否	学習行動が見られない

※成績証明書には、合格科目のみ記載されます。

4. 成績評価確認申請

開示された前学期の成績評価で、不合格〈D評価〉、〈Z評価〉となっている科目に対し、明らかな疑義がある場合のみ、成績評価確認申請を行うことができます。申請期間に教務課へ申請してください。

■成績評価確認申請の手順



◆申請期間や申請方法など詳細は、T-Poやガイダンス資料にてお知らせします。

ただし、以下の場合は成績評価に関する疑義及び質問を一切受け付けないので注意してください。

- 教務課を通さずに、疑問点を直接教員に問い合わせ、その結果を教務課に届け出た場合
- 指定期間外での申請

4**進級・留年・退学・除籍****1. 進 級**

次の学年（1年次から2年次、2年次から3年次、3年次から4年次）へ進級するためには、当該学年に1年（4クォーター）以上在学し、かつ以下の基準を満たさなければなりません。

1年 → 2年	総修得単位数が20単位以上であること
2年 → 3年	総修得単位数が62単位以上であること
3年 → 4年	総修得単位数が90単位以上であること

2. 留 年

進級基準を満たさない場合、留年となります。

留年となった場合には、半期（1学期または2クォーターを単位として）ずつ在学しなければならない期間が延長されます。

3. 退学・除籍**■探究実証系学部の場合**

以下の場合は、大正大学学則第50条、履修規程第14条により退学となります。

- 第1学年、第2学年、第3学年の各学年において、2年（4学期）在学してもなお、次学年に進級できない者
- 在学した直近3学期（1.5年）連続して、各学期のGPA値が1.0未満の者

以下の場合は、学則第51条により除籍となります。

- 休学期間が2年（4学期）を超えて復学できない者
 - 8年（16学期）在学し、卒業できない者
- 編入学生は、4年（8学期）在学し、卒業できない者

■社会創造系学部の場合

以下の場合は、大正大学学則第50条、履修規程第14条により退学となります。

- 第1学年、第2学年、第3学年の各学年において、2年（8クォーター）在学してもなお、次学年に進級できない者
- 在学した直近3学期（1.5年）連続して、各学期のGPA値が1.0未満の者

以下の場合は、学則第51条により除籍となります。

- 休学期間が2年（8クォーター）を超えて復学できない者
- 8年（32クォーター）在学し、卒業できない者

5 卒業

本学に4年以上在学し、所定の授業科目（各学科の卒業要件を参照）を履修し、単位を修得した者は卒業となり、下表のとおり学士の学位を授与します。

1. 卒業の要件

卒業に必要となる単位数を確認のうえ、修得もれのないように注意してください。
必修科目は必ず修得しなければならないので注意してください。

■卒業要件単位数

科目分類	単位数
人間の探究 I～III	6単位必修
社会の探究 I～III	6単位必修
自然の探究 I～III	6単位必修
総合英語 I～III	3単位必修
データサイエンス I～VI	6単位必修
リーダーシップ I～III	3単位必修
第Ⅰ類科目計	30単位必修
第Ⅱ類科目	基礎部門 専門部門
	学科別表及び学科の指導による 卒業論文 卒業研究
第Ⅱ類科目計	8単位選択必修
第Ⅲ類科目	70単位以上
計 (第Ⅰ類+第Ⅱ類+第Ⅲ類)	24単位以上
	124単位以上

- ◆卒業要件単位数：社会共生学部社会福祉学科以外の学部・学科
- ◆卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
- ◆必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

社会共生学部社会福祉学科のみ

科目分類	単位数
人間の探究 I～III	6単位必修
社会の探究 I～III	6単位必修
自然の探究 I～III	6単位必修
総合英語 I～III	3単位必修
データサイエンス I～VI	6単位必修
リーダーシップ I～III	3単位必修
第Ⅰ類科目計	30単位必修
第Ⅱ類科目	学科別表及び学科の指導による
卒業論文・卒業研究	8単位以上選択必修
第Ⅱ類科目計	82単位以上
第Ⅲ類科目	24単位以上
計 (第Ⅰ類+第Ⅱ類+第Ⅲ類)	136単位以上

- ◆卒業までに136単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
- ◆必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計82単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

2. 学位

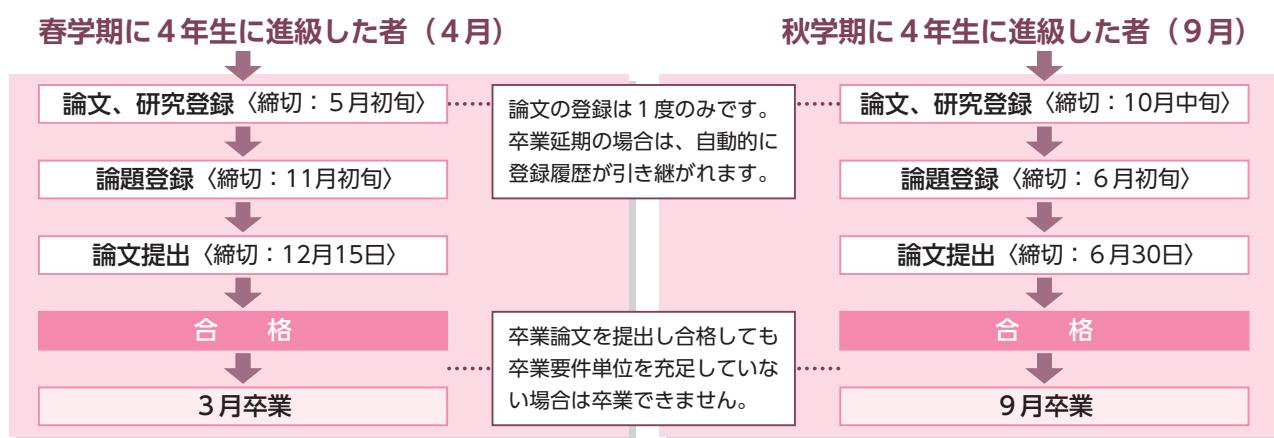
学部名	学科名	学位の名称
仏教学部	仏教学科	学士(仏教学)
社会共生学部	公共政策学科	学士(公共政策学)
	社会福祉学科	学士(社会福祉学)
心理社会学部	人間科学科	学士(人間科学)
	臨床心理学科	学士(臨床心理学)
文学部	人文学科	学士(人文学)
	日本文学科	学士(日本文学)
	歴史学科	学士(歴史学)
表現学部	表現文化学科	学士(表現文化)
地域創生学部	地域創生学科	学士(経済学)

6

卒業論文・卒業研究

学位を授与されるためには、卒業論文・卒業研究を学科へ提出し、審査及び試験に合格し、卒業要件を満たす必要があります。

1. 卒業論文・卒業研究の流れ



◆卒業論文・卒業研究登録

4年次に進級した際、卒業論文提出の意思確認を行います。提出予定の学生は必ず期間内に登録を行ってください。

※卒業論文の履修登録は教務課で行います。卒論・卒研は制限単位に含まれません。

◆論題登録

論題は、副題を含めて60字以内にまとめてください。学科によっては、卒業制作をもって卒業論文に替えることができます。

卒業制作については、学科の指示に従ってください。

2. 卒業論文の体裁

■基本（手書き・ワード）

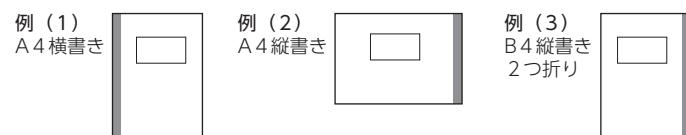
表紙、目次	規定文字数に含まない
序論、本論、結論、注釈	2万字以上
参考文献	規定文字数に含まない

※小説・詩等、学科によって異なる場合があるので、指導教員の指示に従うこと。

■体裁（ワード：感熱紙不可、手書き：鉛筆書き不可）

	用紙サイズ	字詰め	書式	綴じ位置（下記の例参照）
ワード・日本語	A4	40字×40行	横書	例（1）
ワード・英語	A4	指導教員の指示	横書	例（1）
ワード・日本語	A4	40字×40行	縦書	例（2）
手書き・日本語	B4	400字	縦書	例（3）2つ折

■綴じ位置の例



◆論文作成時の注意

- 本文に必ずページ数を記入すること。
 - 目次の各タイトルにそれぞれのページを記入すること。
 - 図表・グラフなどは、本文中に入れるのではなく、章や節の末尾にまとめること。
 - 綴じる際には上記の場所で綴じること。紐綴じの場合は、解けないように中綴じすること。
- ファイルなど、簡単に取り外せる状態のものは受け付けないので注意すること。

*詳細は各学科に問い合わせること。

7**転学部・転学科・転コース**

他学部・他学科、同一学科内の他コースへの転籍を希望する者（1・2年次のみ）は、当該学科・コースに欠員のある場合のみ、転学部・転学科・転コース試験を実施します。

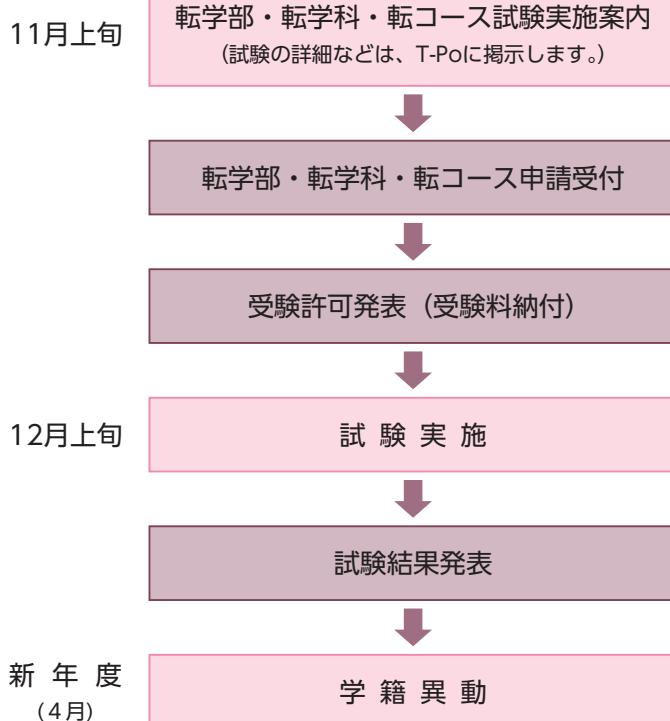
1. 受験資格**■転学部・転学科 受験資格**

1 年 次	進級基準を満たしている者及び満たす見込みの者かつ、1年次春学期のGPA値が3.2以上の者
2 年 次	進級基準を満たしている者及び満たす見込みの者かつ、2年次春学期までのGPA値が3.2以上の者

◆GPA → 詳細はP12

■転コース 受験資格

進級基準をすでに満たしている者あるいは満たす見込みの者

2. 転学部・転学科・転コースの流れ

8

留学、海外文化・語学研修

留学（協定留学、認定留学）、海外文化・語学研修の詳細は以下のとおりです。

	協定留学	認定留学	海外文化・語学研修
期間	●半年あるいは1年	●半年あるいは1年	●1ヶ月程度
形態	●姉妹校（協定校）との協定により、相互に学費を免除して相手校で学ぶ交換留学制度（一部例外あり）。	●協定校以外の大学に認められた留学先で、学費免除なしで学ぶ留学制度。	●大学主催の語学力および異文化理解向上を主な目的とした海外研修。
単位	●単位認定	●単位認定	●単位認定
資格	●協定留学生選抜試験に合格し、各留学先における言語の外国语資格検定証明書が必要。	●留学先大学の入学許可書又は、受け入れ承諾書に加え、留学先の履修課程及び授業科目の詳細書類が必要。	●学部生が対象
その他	●協定校での授業料の一部または全額の免除、及び寮費の減免など（各協定校の条件による）。	●正規の高等教育機関で学位授与権を有する大学を留学先とし、留学先の授業料は自己負担。	●春期休業期間中に協定校で開講される集中講座。
奨学金 奨励金	●海外特別留学奨学金 ●留学先により協定留学生奨学金あり。	●海外特別留学奨学金	●海外語学研修奨励金 ●研修先により協定留学生奨学金あり。
留学先	●アメリカ ハワイ大学 ●ドイツ ミュンヘン大学 ●タイ タマサート大学 ●韓国 東國大学校・東西大学校・ 金剛大学校 ●中国 河南大学・上海大学	●学生本人による選定	●ハワイ大学 ●ミュンヘン大学 ●東西大学校

※在学中に協定校が変わることがあります。

教育課程の構造

大正大学では、学びの目的によって、科目分類を設けています。これらの科目分類ごとに、卒業に必要な単位が設定されており、各学科のページに示されるカリキュラムマップ（履修する順、科目的関係図）を参考にしながら履修を進めることで、専門性の修得やキャリア形成に必要な知見を重ねることができます。履修にあたっては、学科のガイダンスでの指導を踏まえ、学修を進めてください。

科目分類

第Ⅰ類科目

→22ページを参照

大学での学びに必要な共通科目（アカデミックスキルズや探究手法を通じた協働、実践力を身につけることを目的とした科目）

第Ⅱ類科目

→25ページ以降、各学科のページを参照

学科が示すカリキュラムマップにより体系的に修得する学部学科の専門の学び（講義、演習、ゼミナール、実習など）を、様々な形態の授業を通じ、知り、考え、伝え、議論し、まとめ、専門性を高める科目

第Ⅲ類科目

→70ページ・102ページを参照

第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目をベースに、社会との連接を、実践しながら学ぶ科目学生のキャリア志向によって、

国家資格・認定資格取得（資格登録が必要）のための学び

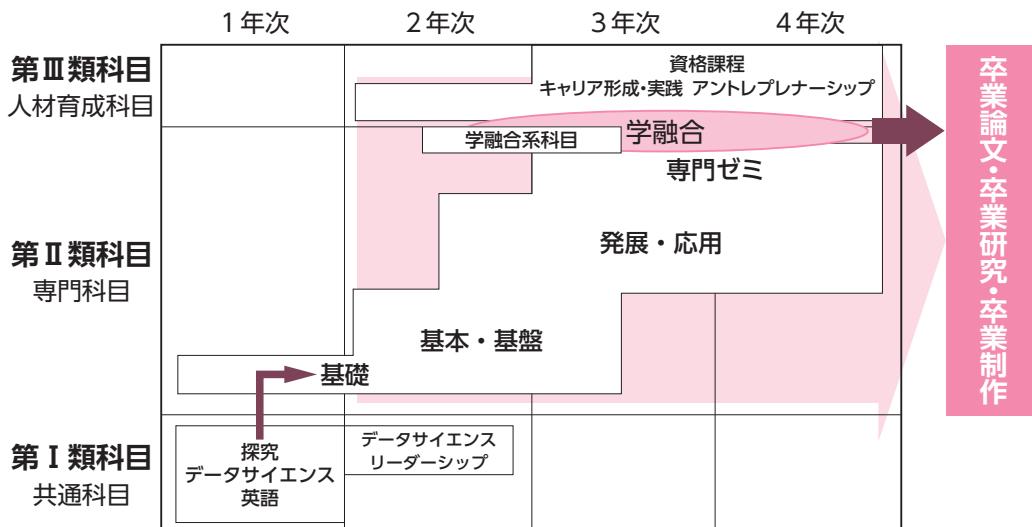
企業研究や地域との協働による学び

専門性をより高めるための学び

アントレプレナーシップ育成プログラム

などがある

■カリキュラムツリーの基本モデル



第Ⅰ類科目

教育目標

第Ⅰ類科目では、大学での学びの基礎となる「主体的な学修態度」を育成するとともに、大学での学びに必要な学修スキル、汎用的な技能を修得することで、本学が目指す新時代の人材像の礎を築くために必要な資質・能力を育成することを目指します。

育成する資質・能力

① 主体的学修態度

自ら進んで学修し、さまざまな学びや経験を統合して、自らの学びを深めることができる。

② 知識理解・活用力

知識・情報を的確に収集・活用して、事象を複眼的に考察し、創造的な発想をすることができる。

③ 表現力

読者や聴衆、状況や場面に即して適切な手段を用いて、分かりやすくかつ説得力のある表現をすることができる。

④ 課題探究・解決力

自ら「問い合わせ」をして探究するとともに、解決策を重層的に構想し、現実的に解決することができる。

⑤ 情報・データ活用力

情報リテラシー、データリテラシーを身につけ、課題解決に役立てることができる。

⑥ 対人力

他者と協働して活動するとともに、リーダーシップを發揮して、他者との共生を目指すことができる。

⑦ セルフマネジメント

自らの価値観を大切にし、将来を見定め、力強く生きていくことができる。

⑧ チャレンジ精神

新しいこと、困難なことに挑戦し、新しい価値創造を目指すことができる。

⑨ 地域密着力

地域の人々と交流し、地域の実情を理解して、地域の人々と協力して、地域の課題を発見し、解決できる。

第Ⅰ類科目

授業科目一覧

授業科目の名称	履修年次	単位数	備 考
人間の探究Ⅰ	1	2	
人間の探究Ⅱ	1	2	
人間の探究Ⅲ	1	2	
社会の探究Ⅰ	1	2	
社会の探究Ⅱ	1	2	
社会の探究Ⅲ	1	2	
自然の探究Ⅰ	1	2	
自然の探究Ⅱ	1	2	
自然の探究Ⅲ	1	2	
総合英語Ⅰ	1	1	
総合英語Ⅱ	1	1	
総合英語Ⅲ	1	1	
データサイエンスⅠ	1	1	
データサイエンスⅡ	1	1	
データサイエンスⅢ	1	1	
データサイエンスⅣ	2	1	
データサイエンスⅤ	2	1	
データサイエンスⅥ	2	1	
リーダーシップⅠ	2	1	
リーダーシップⅡ	2	1	
リーダーシップⅢ	2	1	

30単位必修

探究実証系

第二類科目

仏教学部

心理社会学部

文学部

探究実証系

仏教学部

■ ■ ■
仏教学科

1. 基礎ゼミナール

1・2年生を対象としたコース別のゼミナール。少人数のクラス編成で、大学での学修全般に関するオリエンテーションをはじめ、各コースの基礎的な知識及び上級学年で学ぶ専門科目の内容や学修方法について指導する。

また担当教員と学生生活や学修について話し合う場でもあり、有意義な4年間を送るための第一歩として受講する必修科目である。

2. 基礎・専門・法儀部門

仏教学全般の基礎やコースの専門的学修をしながら、3年次の専門ゼミナール、4年次の卒業論文・卒業研究に展開していくための科目群である。

コースの枠組みを超えて幅広い科目を学ぶことができるが、各自の研究目標にそった科目選択が望まれる。

3. 専門ゼミナール、卒業論文・卒業研究

卒業論文・卒業研究は大学での学修の集大成である。3年次より専門ゼミナールでテーマの決定や資料収集など、担当教員より指導を受けながら卒業論文・卒業研究を完成させていく。

また、よりよい成果があげられるよう、1年生のうちから十分な基礎学修を積み上げることが大切である。

探究実証系 佛教学部 佛教学科 佛教学コース

ディプロマポリシー

佛教学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて得てていこうとする学生を育成するために、佛教学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 佛教学科の学び（佛教学・宗学・国際教養・仏教文化遺産）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。
- ② 佛教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。

思考・判断・表現

- ③ 佛教学科におけるさまざまな学問的領域について、自らの学びの対象とした研究や方法論を通じて多面的に思考・判断することができる。
- ④ 自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、論理的・創造的に表現することができる。
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥ より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、佛教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。

1年次

佛教学・仏教文化の基礎知識及び基礎語学の修得

2年次

基礎知識を活かして日本人と仏教の関わりを考察する

3年次

専門分野の基礎的学修、方法論を修得

4年次

卒業論文、卒業研究の完成

第Ⅱ類科目

基礎部門

基礎ゼミナール I	基礎ゼミナール II
基礎仏教学 I (初期仏教)	基礎仏教学 II (大乗仏教)

基礎ゼミナール III	基礎ゼミナール IV
基礎仏教学 III (東アジア仏教)	基礎仏教学 IV (日本仏教)

語学系

佛教漢文 I	佛教漢文 II	サンスクリット語研究 III
サンスクリット語研究 I	サンスクリット語研究 II	サンスクリット語研究 IV
パーリ語研究 I	パーリ語研究 II	
チベット語研究 I	チベット語研究 II	
インド仏教研究 A	インド仏教研究 B	インド仏教研究 C
日本仏教研究		中国仏教研究
チベット仏教研究		中国仏教文献講読

佛教文化遺産系・文化教養系

佛教文化概論	佛教表現研究 A	佛教美術研究 A
佛教美術入門 A	佛教表現研究 B	佛教美術研究 B
佛教美術入門 B	写経研究 A	佛教美術研究 C
	写経研究 B	佛教文献の基礎学

各宗系

時宗教理体系 A	時宗教理体系 B
時宗教団史研究 A	時宗教団史研究 B
禅学概論	日蓮教学概論

現代社会系

佛教社会福祉論	現代社会と仏教 A
宗教法人法	現代社会と仏教 B
佛教の人権論	現代社会と仏教 C
教育と宗教	現代社会と仏教 D

応用部門

佛教学専門ゼミナール I	佛教学専門ゼミナール II
佛教学専門ゼミナール III	佛教学専門ゼミナール IV

思想系

インド思想研究	日本仏教文献講読
	インド文献講読
	インド仏教特講

中国仏教特講
日本仏教特講

仏画研究 A	仏画研究 B
仏像研究 A	仏像研究 B
仏教と儀礼	

選択集 I	選択集 II

現代仏教文化研究

卒業研究・卒業論文

探究実証系 仏教学部 仏教学科 宗学コース

ディプロマポリシー

仏教学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて得てていこうとする学生を育成するために、仏教学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 仏教学科の学び（仏教学・宗学・国際教養・仏教文化遺産）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。
- ② 仏教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。

思考・判断・表現

- ③ 仏教学科におけるさまざまな学問的領域について、自らの学びの対象とした研究や方法論を通じて多面的に思考・判断することができる。
- ④ 自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、論理的・創造的に表現することができる。
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥ より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、仏教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。

1年次

仏教学・宗学、法儀の基礎と基礎語学を修得します

2年次

各宗の教理・歴史を体系的に学び、法儀を深めます

3年次

専門知識を深め、現代社会に応用する力を身につけます

4年次

卒業論文、卒業研究の完成

第Ⅱ類科目

基礎部門

- | | |
|----------------|-----------------|
| 基礎ゼミナール I | 基礎ゼミナール II |
| 基礎仏教学 I (初期仏教) | 基礎仏教学 II (大乗仏教) |

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 基礎ゼミナール III | 基礎ゼミナール IV |
| 基礎仏教学 III (東アジア仏教) | 基礎仏教学 IV (日本仏教) |

語学系

- | | |
|--------------|---------|
| サンスクリット語研究 I | 佛教漢文 II |
| 佛教漢文 I | |

宗学系

- | | |
|-----------|-----------|
| 実践僧侶論 | 各宗教理体系 A |
| 各宗教理体系 B | 各宗教典概説 A |
| 各宗教典概説 B | 各宗教団史研究 A |
| 各宗教団史研究 B | |

法儀部門

- | | |
|------------|-----------|
| 各宗教儀研究 I | 各宗教儀研究 II |
| 各宗教儀研究 III | 各宗教儀研究 IV |

応用部門

- | | |
|----------|----------|
| 各宗教理研究 A | 各宗教理研究 B |
| 各宗教理研究 C | 各宗教理研究 D |

- | | |
|------------|-----------|
| 各宗教理研究 III | 各宗教理研究 IV |
|------------|-----------|

現代社会系

- | | |
|-----------------|--------|
| 現代社会と仏教 A・B・C・D | 教育と宗教 |
| 佛教社会福祉論 | 佛教の人権論 |
| 宗教法人法 | |

思想系

- | | |
|----------|----------|
| インド思想研究 | インド文献講読 |
| 中国仏教研究 | 中国仏教文献講読 |
| 日本仏教研究 | 日本仏教文献講読 |
| チベット仏教研究 | |

各宗系

- | | |
|-----------|-----------|
| 時宗教理体系 A | 時宗教理体系 B |
| 時宗教団史研究 A | 時宗教団史研究 B |

- | | |
|--------|--------|
| 日蓮教学概論 | 禅学概論 |
| 選択集 I | 選択集 II |

統合系

- | | |
|----------|----------|
| 仏教研修 A | 仏教研修 B |
| 古都地域研修 A | 古都地域研修 B |

- | | |
|----------|----------|
| 仏教研修 C | 仏教研修 D |
| 古都地域研修 C | 古都地域研修 D |

卒業研究・卒業論文

探究実証系 佛教学部 佛教学科 国際教養コース

ディプロマポリシー

佛教学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて得てていこうとする学生を育成するために、佛教学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 佛教学科の学び（佛教学・宗学・国際教養・仏教文化遺産）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。
- ② 佛教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。

思考・判断・表現

- ③ 佛教学科におけるさまざまな学問的領域について、自らの学びの対象とした研究や方法論を通じて多面的に思考・判断することができる。
- ④ 自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、論理的・創造的に表現することができる。
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥ より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、佛教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。

1年次

佛教の基礎知識と英語のコミュニケーション能力を身につけます

2年次

国際的な視野から日本文化・佛教を分析します
自らの考えを英語で表現します

3年次

理解した日本文化・佛教について英語で表現できます

4年次

国際社会に向けて日本文化・佛教を発信できます

第Ⅱ類科目

基礎部門

基礎ゼミナール I	基礎ゼミナール II
基礎仏教学 I (初期仏教)	基礎仏教学 II (大乗仏教)

語学系

コミュニケーション英語 I	コミュニケーション英語 II
コミュニケーション英語 III	コミュニケーション英語 IV

学融合ゼミナール I

学融合ゼミナール II

応用部門

国際教養専門ゼミナール I	国際教養専門ゼミナール II
国際教養専門ゼミナール III	国際教養専門ゼミナール IV

国際系

実践英語 I	実践英語 II
英語で学ぶ仏教 I	英語で学ぶ仏教 II

佛教文化遺産系・文化教養系

佛教文化概論	佛教表現研究 A	日本人の生活と仏教 A	佛教と儀礼
佛教美術入門 A	佛教表現研究 B	日本人の生活と仏教 B	日本の伝統美研究 C
佛教美術入門 B	日本の伝統美研究 A	日本の伝統美研究 B	

現代社会系

佛教社会福祉論	現代社会と仏教 A
宗教法人法	現代社会と仏教 B
佛教の人権論	現代社会と仏教 C
教育と宗教	現代社会と仏教 D

統合系

仏教研修 A
古都地域研修 A

仏教研修 B
古都地域研修 B

仏教研修 C	
古都地域研修 C	
プロジェクト実習 A	プロジェクト実習 B

仏教研修 D
古都地域研修 D

卒業研究・卒業論文

探究実証系 佛教学部 佛教学科 佛教文化遺産コース

ディプロマポリシー

佛教学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて得てていこうとする学生を育成するために、佛教学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 佛教学科の学び（佛教学・宗学・国際教養・佛教文化遺産）に関する幅広い知識と研究方法を身につけている。
- ② 佛教学科の学びで得た知識と研究方法や技能を、現実社会の中で活用できる。

思考・判断・表現

- ③ 佛教学科におけるさまざまな学問的領域について、自らの学びの対象とした研究や方法論を通じて多面的に思考・判断することができる。
- ④ 自ら学び体験したことを、他者や地域社会・世界に向けて、論理的・創造的に表現することができる。
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥ より良い社会の形成と発展のために、多様な価値観を認め、他者と協働しながら、佛教学科での修学内容を主体的かつ実践的に活かそうとする姿勢を身につけている。

1年次

佛教学・佛教文化の基礎知識及び基礎語学の修得

2年次

基礎知識を活かして日本人と佛教の関わりを考察する

3年次

専門分野の基礎的学修、方法論を修得

4年次

卒業論文、卒業研究の完成

第Ⅱ類科目

基礎部門

基礎ゼミナール I	基礎ゼミナール II
基礎仏教学 I (初期仏教)	基礎仏教学 II (大乗仏教)

基礎ゼミナール III	基礎ゼミナール IV
基礎仏教学 III (東アジア仏教)	基礎仏教学 IV (日本仏教)

語学系

佛教漢文 I	佛教漢文 II	サンスクリット語研究 III
サンスクリット語研究 I	サンスクリット語研究 II	サンスクリット語研究 IV
パーリ語研究 I	パーリ語研究 II	
チベット語研究 I	チベット語研究 II	

インド仏教研究 A	インド仏教研究 C
インド仏教研究 B	

佛教文化遺産系

佛教文化概論	写経研究 A	佛教文化ワークショップ A
佛教美術入門 A	写経研究 B	佛教美術研究 A
佛教美術入門 B	佛教文献の基礎学	佛教美術研究 B
博物館概論	佛教史料の基礎学	佛教美術研究 C
	民俗学概論	佛教と歴史
	歴史地理学	美術工芸史概説
		考古学概説

統合系

仏教研修 A	仏教研修 B	仏教文化ワークショップ B	仏教文化 PBL
仏教文化フィールドワーク A	仏教文化フィールドワーク B		
古都地域研修 A	古都地域研修 B		

応用部門

佛教文化遺産専門ゼミナール I	佛教文化遺産専門ゼミナール II
佛教文化遺産専門ゼミナール III	佛教文化遺産専門ゼミナール IV

思想系

インド思想研究	インド文献講読	インド仏教特講
中国仏教研究	中国仏教文献講読	中国仏教特講
日本仏教研究	日本仏教文献講読	日本仏教特講
チベット仏教研究		

卒業研究・卒業論文



■ 第Ⅱ類科目 佛教学部 佛教学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
基礎部門	基礎佛教学Ⅰ（初期仏教）	1	4	必修
	基礎佛教学Ⅱ（大乗仏教）	1	4	
	基礎佛教学Ⅲ（東アジア仏教）	2	4	
	基礎佛教学Ⅳ（日本仏教）	2	4	
	基礎ゼミナールⅠ	1	2	必修
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎ゼミナールⅢ	2	2	
	基礎ゼミナールⅣ	2	2	
専門部門	佛教漢文Ⅰ	1	2	佛教学、佛教文化遺産、宗学コース必修
	佛教漢文Ⅱ	2	2	
	サンスクリット語研究Ⅰ	1	2	
	サンスクリット語研究Ⅱ	2	2	
	サンスクリット語研究Ⅲ	2	2	
	サンスクリット語研究Ⅳ	2	2	
	パーリ語研究Ⅰ	2	2	
	パーリ語研究Ⅱ	2	2	
語学系	チベット語研究Ⅰ	2	2	佛教学コース2単位以上履修すること
	チベット語研究Ⅱ	2	2	
	コミュニケーション英語Ⅰ	1	2	
	コミュニケーション英語Ⅱ	1	3	
	コミュニケーション英語Ⅲ	2	4	
	コミュニケーション英語Ⅳ	2	3	
	インド思想研究	3	2	
	インド仏教研究A（アビダルマ）	1	2	
思想系	インド仏教研究B（大乗經典）	2	2	-隔年開講
	インド仏教研究C（大乗思想）	2	2	
	インド文献講読	3	2	-隔年開講
	インド仏教特講	4	2	
	チベット仏教研究	2	2	-隔年開講 佛教学コース12単位以上 宗学コース6単位以上 履修すること
	中国仏教研究	2	2	
	中国仏教文献講読	2	2	
	中国仏教特講	4	2	
	日本仏教研究	2	2	
	日本仏教文献講読	3	2	
	日本仏教特講	4	2	-隔年開講
国際系	実践英語Ⅰ	3	2	国際教養コース 履修すること
	実践英語Ⅱ	3	2	
	英語で学ぶ仏教Ⅰ	3	2	
	英語で学ぶ仏教Ⅱ	3	2	
	世界の思想と宗教A	2	2	
	世界の思想と宗教B	2	2	
	世界の仏教事情	2	2	
文化教養系	日本人の生活と仏教A	2	2	-隔年開講 -隔年開講
	日本人の生活と仏教B	2	2	
	日本の伝統美研究A	2	2	履修に際しては事前調整を行う -隔年休講 -隔年休講
	日本の伝統美研究B	2	2	
	日本の伝統美研究C	3	2	
	仏教表現研究A	2	2	
	仏教表現研究B	2	2	
佛教文化遺産系	仏教と儀礼	3	2	-隔年開講 -隔年開講 -隔年開講
	仏教文化概論	1	2	
	仏教美術入門A	1	2	
	仏教美術入門B	1	2	
	仏教美術研究A	2	2	
	仏教美術研究B	2	2	
	仏教美術研究C	2	2	
	仏画研究A	3	2	履修に際しては事前調整を行う
	仏画研究B	3	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
専門部門 佛教文化遺産系	仏像研究A	3	2	-隔年開講
	仏像研究B	3	2	-隔年開講
	写経研究A	2	2	-隔年開講
	写経研究B	2	2	-隔年開講
	仏教文献の基礎学	2	2	-隔年開講
	仏教史料の基礎学	2	2	
	仏教文化ワークショップA	2	3	仏教文化遺産コース必修
	仏教文化ワークショップB	3	3	履修は仏教文化遺産コースの学生に限定
	仏教文化PBL	3	2	
	博物館概論	1	2	
	仏教と歴史	2	2	
	美術工芸史概説	2	2	
	考古学概説	2	2	
	民俗学概説	2	2	
	歴史地理学	2	2	
統合系	プロジェクト実習A	3	2	国際教養コース 4 単位必修
	プロジェクト実習B	3	2	
	国際教養フィールドワーク A	1 2 3 4	2	2年に1回開講
	国際教養フィールドワーク B	1 2 3 4	2	国際教養コース 2 単位必修 履修に際しては事前調整を行う
	仏教文化フィールドワーク A	1 2 3 4	2	
	仏教文化フィールドワーク B	1 2 3 4	2	
	仏教文化フィールドワーク C	1 2 3 4	2	
	仏教文化フィールドワーク D	1 2 3 4	2	
	仏教研修A	1 2 3 4	2	
	仏教研修B	1 2 3 4	2	
	仏教研修C	1 2 3 4	2	
	仏教研修D	1 2 3 4	2	
	古都地域研修A	1 2 3 4	2	
	古都地域研修B	1 2 3 4	2	
	古都地域研修C	1 2 3 4	2	
	古都地域研修D	1 2 3 4	2	
現代社会系	教育と宗教	2	2	-隔年開講
	仏教の人権論	2	2	
	仏教社会福祉論	2	2	-社会福祉学科開講
	宗教法人法	2	2	
	現代社会と仏教A	2	2	
	現代社会と仏教B	2	2	
	現代社会と仏教C	2	2	
	現代社会と仏教D	2	2	
各宗系	現代仏教文化研究	3	2	
	選択集 I	3	2	
	選択集 II	3	2	
	時宗教理体系A	2	2	
	時宗教理体系B	2	2	
	時宗教団史研究A	2	2	
	時宗教団史研究B	2	2	
	日蓮教学概論	2	2	-隔年開講
	禅学概論	2	2	-隔年開講
	実践僧侶論	2	2	
宗学系	天台学教理体系A	2	2	
	天台学教理体系B	2	2	
	天台学宗典概説A	2	2	
	天台学宗典概説B	2	2	
	天台学教理研究A	3	2	
	天台学教理研究B	3	2	
	天台学教理研究C	3	2	
	天台学教理研究D	3	2	
	天台教団史研究A	2	2	
	天台教団史研究B	2	2	
	真言豊山学教理体系A	2	2	
	真言豊山学教理体系B	2	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
専門部門 宗学系	真言豊山学宗典概説A	2	2	
	真言豊山学宗典概説B	2	2	
	真言豊山学教理研究A	3	2	
	真言豊山学教理研究B	3	2	
	真言豊山学教理研究C	3	2	
	真言豊山学教理研究D	3	2	
	真言豊山教団史研究A	2	2	
	真言豊山教団史研究B	2	2	
	真言智山学教理体系A	2	2	
	真言智山学教理体系B	2	2	
	真言智山学宗典概説A	2	2	
	真言智山学宗典概説B	2	2	
	真言智山学教理研究A	3	2	
	真言智山学教理研究B	3	2	
	真言智山学教理研究C	3	2	
	真言智山学教理研究D	3	2	
	真言智山教団史研究A	2	2	
	真言智山教団史研究B	2	2	
	浄土学教理体系A	2	2	
	浄土学教理体系B	2	2	
	浄土学宗典概説A	2	2	
	浄土学宗典概説B	2	2	
	浄土学教理研究A	3	2	
	浄土学教理研究B	3	2	
	浄土学教理研究C	3	2	
	浄土学教理研究D	3	2	
	浄土教団史研究A	2	2	
	浄土教団史研究B	2	2	
法儀部門	天台宗法儀研究 I	1	2	
	天台宗法儀研究 II	1	2	
	天台宗法儀研究 III	2	2	
	天台宗法儀研究 IV	2	2	
	天台宗伝道学 I	3	2	
	天台宗伝道学 II	3	2	
	天台宗悉曇 I	3	2	
	天台宗悉曇 II	3	2	
	真言宗豊山法儀研究 I	1	2	
	真言宗豊山法儀研究 II	1	2	
	真言宗豊山法儀研究 III	2	2	
	真言宗豊山法儀研究 IV	2	2	
	真言宗豊山実践法儀	4	1	
	真言宗豊山伝道学 I	3	2	
	真言宗豊山伝道学 II	3	2	
	真言宗豊山悉曇 I	3	2	
	真言宗豊山悉曇 II	3	2	
	真言宗智山法儀研究 I	1	2	
	真言宗智山法儀研究 II	1	2	
	真言宗智山法儀研究 III	2	2	
	真言宗智山法儀研究 IV	2	2	
	真言宗智山法儀演習	3	4	
	真言宗智山伝道学 I	3	2	
	真言宗智山伝道学 II	3	2	
	真言宗智山悉曇 I	3	2	
	真言宗智山悉曇 II	3	2	
	浄土宗法儀研究 I	1	2	
	浄土宗法儀研究 II	1	2	
	浄土宗法儀研究 III	2	2	
	浄土宗法儀研究 IV	2	2	
	浄土宗法儀特論	4	2	
	浄土宗伝道学 I	3	2	
	浄土宗伝道学 II	3	2	

宗学を主専攻とする者の選択科目
僧階資格登録が必要

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
法 儀 部 門	浄土宗詠唱 I	2	2	宗学を主専攻とする者の選択科目 僧階資格登録が必要
	浄土宗詠唱 II	2	2	
	時宗法儀研究 I	1	1	
	時宗法儀研究 II	1	1	
	時宗法儀研究 III	2	1	
	時宗法儀研究 IV	2	1	
応 用 部 門	仏教学専門ゼミナール I	3	2	8 単位以上選択必修
	仏教学専門ゼミナール II	3	2	
	仏教学専門ゼミナール III	4	2	
	仏教学専門ゼミナール IV	4	2	
	天台学専門ゼミナール I	3	2	
	天台学専門ゼミナール II	3	2	
	天台学専門ゼミナール III	4	2	
	天台学専門ゼミナール IV	4	2	
	真言豊山学専門ゼミナール I	3	2	
	真言豊山学専門ゼミナール II	3	2	
	真言豊山学専門ゼミナール III	4	2	
	真言豊山学専門ゼミナール IV	4	2	
	真言智山学専門ゼミナール I	3	2	
	真言智山学専門ゼミナール II	3	2	
	真言智山学専門ゼミナール III	4	2	
	真言智山学専門ゼミナール IV	4	2	
	淨土学専門ゼミナール I	3	2	
	淨土学専門ゼミナール II	3	2	
	淨土学専門ゼミナール III	4	2	
	淨土学専門ゼミナール IV	4	2	
	国際教養専門ゼミナール I	3	2	
	国際教養専門ゼミナール II	3	2	
	国際教養専門ゼミナール III	4	2	
	国際教養専門ゼミナール IV	4	2	
卒業論文・卒業研究	卒業論文	4	8	8 単位以上選択必修
	卒業研究	4	8	

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の指示に従い履修すること。

[2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

[3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

●先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- ・天台宗法儀研究 I → 天台宗法儀研究 II → 天台宗法儀研究 III → 天台宗法儀研究 IV
- ・天台宗悉曇 I → 天台宗悉曇 II
- ・真言宗豊山法儀研究 I → 真言宗豊山法儀研究 II → 真言宗豊山法儀研究 III → 真言宗豊山法儀研究 IV
- ・真言宗豊山悉曇 I → 真言宗豊山悉曇 II
- ・真言宗智山法儀研究 I → 真言宗智山法儀研究 II → 真言宗智山法儀研究 III → 真言宗智山法儀研究 IV
- ・真言宗智山悉曇 I → 真言宗智山悉曇 II
- ・淨土宗法儀研究 I → 淨土宗法儀研究 II → 淨土宗法儀研究 III → 淨土宗法儀研究 IV
- ・淨土宗伝道学 I → 淨土宗伝道学 II
- ・淨土宗詠唱 I → 淨土宗詠唱 II

探究実証系

心理社会学部

人間科学科
臨床心理学科

1. 基礎ゼミナール

1年生を対象とした学科ごとのゼミナール。比較的少人数のクラス編成で、所属学科の学修内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学修方法について学ぶ。また担当教員は、クラスの学生の学修全般、生活も気にかけている。

2. 学科における専門科目

学科の専門科目は、各分野の専門領域について学ぶ科目群、多様な研究方法について学ぶ科目群、3年次以降の学修の基盤をつくる演習・実習科目群によって構成される。意欲的に、かつ広い視野を持って学んでいく姿勢が望まれる。

3. 専門演習・専門ゼミナール、卒業論文

3・4年次になると学科の学修内容の特色が明確になってくるとともに、実験や調査などの実践的な授業や学外における実習も行われる。また、より専門性を深めた講義科目に加え、専門演習・ゼミナールでは卒業論文執筆も念頭に置いた自律的な学びが展開される。

探究実証系 心理社会学部 人間科学科

ディプロマポリシー

人間科学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していくとする学生を育成するために、人間科学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 「Life (人びとの人生・生活)」に関して社会学・心理学及び身体科学の観点から領域横断的な知識を有している。
- ② 人間科学に関する実験・調査・観察などの技能を身につけ、「Life」について科学的にアプローチすることができる。

思考・判断・表現

- ③ 「Life」について複眼的に思考し、それに基づいて判断できる。
- ④ 根拠に基づいて論理的に表現することができる。
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥ 「Life」に関する多様な課題に関心を抱き、自ら調査・分析し、解決しようとする意欲を有している。
- ⑦ 今日的な課題に対して、時流にとらわれることなく、主体的な態度で向き合うとともに、他者と協働して解決しようとする姿勢を身につけている。

1 年 次

基礎的な知識と研究手法の修得

2 年 次

実践を通じた知識と研究手法の修得

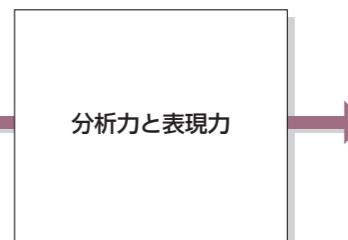
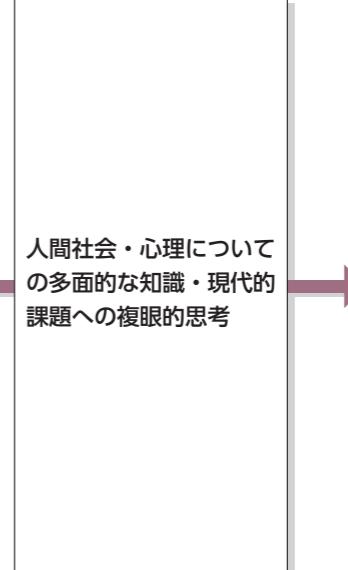
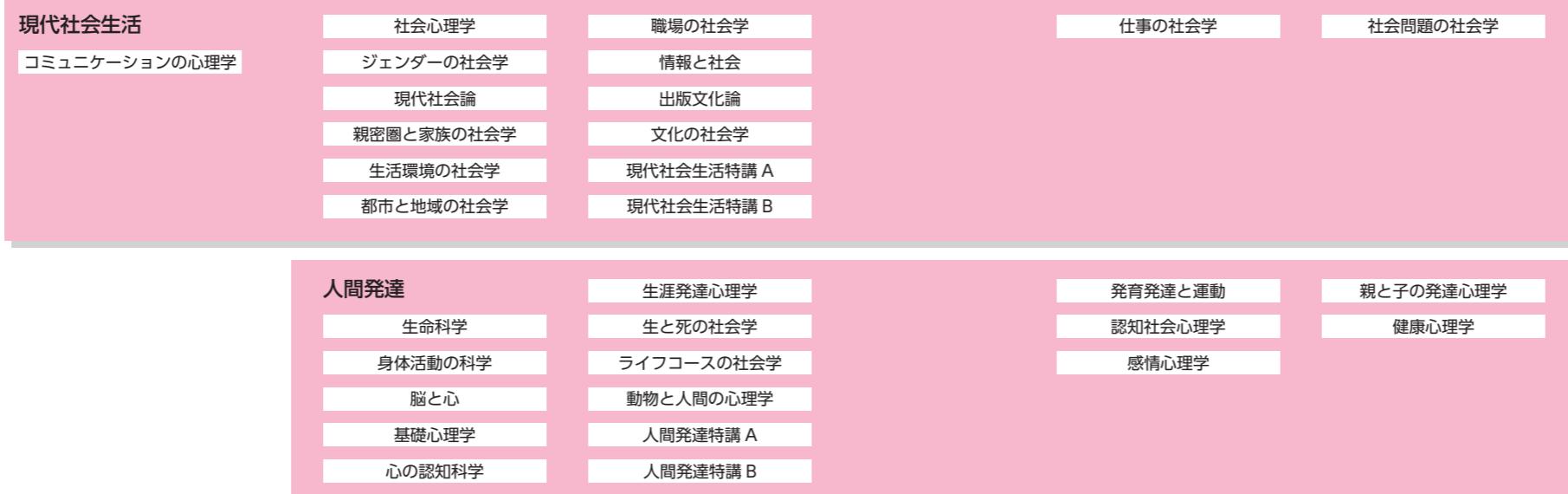
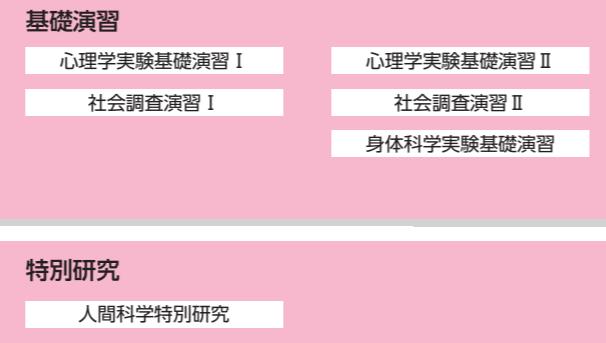
3 年 次

知識と研究手法の深化及び問題の発見

4 年 次

テーマ設定と研究実践

第Ⅱ類科目



■ 第Ⅱ類科目 心理社会学部 人間科学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
基礎部門	人間科学の基礎	1	2	3科目6単位必修 6単位以上選択必修
	基礎ゼミナールⅠ	1	2	
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	心理学の基礎	1	4	
	社会学の基礎	1	4	
	身体科学の基礎	1	2	
研究法部門	心理学研究法A	1	2	6単位以上選択必修 *
	心理学研究法B	2	2	
	社会調査法A	1	2	
	社会学の理論と方法	2	2	
	心理学実験基礎演習Ⅰ	2	2	
	心理学実験基礎演習Ⅱ	2	2	
	社会調査演習Ⅰ	2	2	
	社会調査演習Ⅱ	2	2	
	身体科学実験基礎演習	2	2	
	心理学研究法C	2	2	
専門部門	社会調査法B	1	2	A群とB群から各10単位以上、 かつA群とB群から 合計32単位以上選択必修
	社会調査法C	2	2	
	社会統計学	2	2	
	多変量解析入門	3	4	
	質的社会調査法	3	4	
	脳と心	2	3	
人間発達科目（A群）	基礎心理学	2	3	A群とB群から各10単位以上、 かつA群とB群から 合計32単位以上選択必修
	心の認知科学	2	3	
	生涯発達心理学	2	3	
	生命科学	2	3	
	身体活動の科学	2	3	
	生と死の社会学	2	3	
	ライフコースの社会学	2	3	
	動物と人間の心理学	2	3	
	発育発達と運動	3	4	
	認知社会心理学	3	4	
	感情心理学	3	4	
	親と子の発達心理学	3	4	
	健康心理学	3	4	
	人間発達特講A	2	3	
	人間発達特講B	2	3	
現代社会生活科目（B群）	コミュニケーションの心理学	1	2	A群とB群から各10単位以上、 かつA群とB群から 合計32単位以上選択必修
	ジェンダーの社会学	2	3	
	社会心理学	2	3	
	現代社会論	2	3	
	親密圏と家族の社会学	2	3	
	生活環境の社会学	2	3	
	都市と地域の社会学	2	3	
	職場の社会学	2	3	
	情報と社会	2	3	
	出版文化論	2	3	
	文化の社会学	2	3	
	仕事の社会学	3	4	
	社会問題の社会学	3	4	
	現代社会生活特講A	2	3	
	現代社会生活特講B	2	3	

次ページに続く

部 門		授業科目の名称	履修年次			単位	備 考
専 門 部 門	特別研究	人間科学特別研究	2	3	4	2	
	演習科目	人間科学専門演習Ⅰ		3		4	2科目8単位必修
		人間科学専門演習Ⅱ		3		4	
卒 業 論 文		卒業論文			4	8	8単位必修

*印(研究法部門・基礎演習科目)は、各学問領域についてより深く学び、専門演習及び卒業論文において必要となる基礎的な知識や技術を身につけるための科目群である。複数の領域を積極的に履修し、3年次からのゼミ選択の手がかりとしてほしい。配置されたゼミによっては関連科目的履修を求められることもある。

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

- [1] 別表の指示に従い履修すること。
 - [2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
 - [3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。
- ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

●先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- ・心理学研究法A → 心理学実験基礎演習Ⅰ
- ・心理学実験基礎演習Ⅰ → 心理学実験基礎演習Ⅱ
- ・心理学実験基礎演習Ⅰ → 心理学研究法C
- ・社会調査法A → 社会調査法B
- ・社会調査法C → 質的社会調査法
- ・社会調査演習Ⅰの履修希望者は、社会調査法Aおよび社会調査法Bの2科目4単位を修得済みとする。
- ・社会調査演習Ⅰ → 社会調査演習Ⅱ（同じ教員クラスの継続とする。）
- ・人間科学専門演習Ⅰ → 人間科学専門演習Ⅱ（同じ教員クラスの継続とする。）
- ・多変量解析入門を履修する者は以下のいずれかの条件を満たしていること。
 - 1) 社会調査法Cと社会統計学の両方を修得済みである。
 - 2) 心理学研究法Aと心理学研究法Bの両方を修得済みである。

探究実証系 心理社会学部 臨床心理学科

ディプロマポリシー

臨床心理学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していくとする学生を育成するために、臨床心理学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 臨床心理学の諸理論と技法の基本と核心を理解している。
- ② 心理学諸分野の基本的な研究方法を身につけ、現実社会の中で活用できる。

思考・判断・表現

- ③ 客觀性を重視する科学的視点と共感性を軸とする臨床的視点の両方を身につけ、多面かつ多角的な判断ができる。
- ④ 専門的文献を正確に理解するとともに、自らの問題意識を学術的に論証していくための方法を身につけ、学修成果や考察を的確に表現し、伝達することができる。
- ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥ 互いの個性や多様な価値観を尊重しながら他者と協働し、自らの学びや人間関係を構築しようとする姿勢を有している。
- ⑦ 臨床心理実践の学びを通して、一般社会人として不可欠な倫理やモラルを心得るとともに、責任ある社会人として行動しようとする態度を身につけている。

1 年 次

広く心理学・臨床心理学の諸領域を学びます

2 年 次

実験や統計的分析を行い、まとめ方を学びます

3 年 次

それぞれ関心ある領域について知見を深めています

4 年 次

臨床心理学の観点から、各テーマの研究を進めています

第Ⅱ類科目

関連領域部門

感情・人格心理学

知覚・認知心理学

社会・集団・家族心理学

学習・言語心理学

学融合ゼミナール I → 学融合ゼミナール II

基礎部門

心理学概論

臨床心理学基礎ゼミナール I

臨床心理学概論

臨床心理学基礎ゼミナール II

応用部門

心理療法論 A

心理療法論 C

心理療法論 B

心理療法論 D

公認心理師の職責

心理学的支援法

関係行政論

臨床心理学特論 A

臨床心理学特論 B

臨床心理学特論 C

臨床心理学特論 D

調査・研究法部門

心理学研究法

心理学実験

心理学基礎演習

心理学統計法

質的研究法

演習・実習部門

心理的アセスメント

臨床心理学専門ゼミナール I

臨床心理学専門ゼミナール II

心理基礎実習 I

心理基礎実習 II

心理演習

心理臨床技法演習

心理臨床査定演習

心理実習

学外実習・見学80時間以上

卒業研究・卒業論文

■ 第Ⅱ類科目 心理社会学部 臨床心理学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目 4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
基礎 部 門	心理学概論	1	2	4科目 8単位必修
	臨床心理学概論	1	2	
	臨床心理学基礎ゼミナールⅠ	1	2	
	臨床心理学基礎ゼミナールⅡ	1	2	
調査・研究法部門	心理学研究法	1	2	- 1科目 2単位必修 選択科目 4科目 8単位必修
	心理学実験	2 3 4	4	
	心理学基礎演習	2 3 4	4	
	心理学統計法	3 4	2	
	質的研究法	3 4	2	
	臨床心理学専門ゼミナールⅠ	3	2	
	臨床心理学専門ゼミナールⅡ	3	2	
	臨床心理学専門ゼミナールⅢ	4	2	
	臨床心理学専門ゼミナールⅣ	4	2	
関連領域部門	知覚・認知心理学	1 2 3 4	2	選択科目
	学習・言語心理学	1 2 3 4	2	
	感情・人格心理学	1 2 3 4	2	
	社会・集団・家族心理学	1 2 3 4	2	
	神経・生理心理学	2 3 4	2	
	発達心理学	2 3 4	2	
	障害者・障害児心理学	2 3 4	2	
	健康・医療心理学	2 3 4	2	
	福祉心理学	2 3 4	2	
	教育・学校心理学	2 3 4	2	
	司法・犯罪心理学	2 3 4	2	
	コミュニティ心理学	2 3 4	2	
	コミュニケーション心理学	2 3 4	2	
	青年心理学	2 3 4	2	
	産業・組織心理学	2 3 4	2	
	人体の構造と機能及び疾病	2 3 4	2	
	精神疾患とその治療	2 3 4	4	
演習・実習部門	心理的アセスメント	2 3 4	2	選択科目 2科目 2単位必修 選択科目(学外実習・見学80時間以上)
	心理演習	3 4	4	
	心理臨床査定演習	3 4	4	
	心理臨床技法演習	3 4	4	
	心理基礎実習Ⅰ	2	1	
	心理基礎実習Ⅱ	2	1	
	心理実習	3 4	4	
応用 部 門	公認心理師の職責	2 3 4	2	選択科目
	心理学的支援法	2 3 4	2	
	関係行政論	3 4	2	
	心理療法論A	2 3 4	2	
	心理療法論B	2 3 4	2	
	心理療法論C	2 3 4	2	
	心理療法論D	2 3 4	2	
	臨床心理学特論A	3 4	2	
	臨床心理学特論B	3 4	2	
	臨床心理学特論C	3 4	2	
	臨床心理学特論D	3 4	2	
卒 業 論 文	卒業論文	4	8	1科目 8単位選択必修
	卒業研究	4	8	

次ページに続く

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の指示に従い履修すること。

[2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

[3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

●先修制科目……以下の科目は順次履修すること。

- ・心理学研究法→心理学実験
- ・心理学実験→心理学統計法、質的研究法
- ・心理的アセスメント→心理臨床査定演習
- ・心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ→心理実習
- ・心理学的支援法→心理演習、心理臨床技法演習

■ 公認心理師養成科目一覧

授業科目的名称	履修年次			単位	備 考
	2	3	4		
①公認心理師の職責				2	
②心理学概論	1			2	
③臨床心理学概論	1			2	
④心理学研究法	1			2	
⑤心理学統計法		3	4	2	
⑥心理学実験		2	3	4	4
⑦知覚・認知心理学	1	2	3	4	2
⑧学習・言語心理学	1	2	3	4	2
⑨感情・人格心理学	1	2	3	4	2
⑩神経・生理心理学		2	3	4	2
⑪社会・集団・家族心理学	1	2	3	4	2
⑫発達心理学		2	3	4	2
⑬障害者・障害児心理学		2	3	4	2
⑭心理的アセスメント		2	3	4	2
⑮心理学的支援法		2	3	4	2
⑯健康・医療心理学		2	3	4	2
⑰福祉心理学		2	3	4	2
⑱教育・学校心理学		2	3	4	2
⑲司法・犯罪心理学		2	3	4	2
⑳産業・組織心理学		2	3	4	2
㉑人体の構造と機能及び疾病		2	3	4	2
㉒精神疾患とその治療		2	3	4	4
㉓関係行政論			3	4	2
㉔心理演習			3	4	4
㉕心理実習			3	4	4

●公認心理師養成科目について。

・別表の①～㉕全科目の単位を修得すること。

・心理実習については、学外実習への参加が求められるため、学科が定めた成績評価基準をクリアした学生に対して、適正検査・試験及び事前面談を行い、合格者に履修を認める。

探究実証系

文学部

人文学科
日本文学科
歴史学科

1. 基礎ゼミナール

1年生と2年生を対象とする入門及び基礎のゼミナール形式の科目。すべての学びのスタートとなる大切な科目である。少人数編成で、所属コースの学習の基礎を培い、仲間と出会い、ともに学び、議論し、切磋琢磨する。専門領域につながる新たな知識を共有し、考え、成果を発表する場となる。

2. 学科の基礎部門・分野別部門・応用部門

学科ごとに構成される基礎部門及び分野別部門、応用部門の科目。1年生と2年生は所属コースの学びに必要な学問の基本的なスキルを修得し、3年生からはさらに高度な応用力を身につける。学科教員の指導のもとに、多彩な科目のなかから、効果的な科目選択をし、卒業論文・卒業研究に取り組むための力を養う。

3. 課題研究・専門演習、卒業論文

専門的な研究では、学科ごとの特色が反映され、授業の形態や方法もさまざまである。

卒業論文は大学における学びの集大成である。これまで積み重ねてきた努力や学習によって得たすべての力を結集させ、仲間と励ましあい、各自の研究テーマを完成させる。

探究実証系 文学部 人文学科 哲学・宗教文化コース

ディプロマポリシー

人文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していくことをする学生を育成するために、人文学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 哲学、思想、宗教、文化の諸分野に関する深い教養を体系的に身につけています。
- ② 哲学、思想、宗教、文化の諸分野における研究を通じて、学問の基本的な方法を身につけています。

思考・判断・表現

- ③ 哲学、思想、宗教、文化の学問的領域の分析方法を応用し、多面かつ学際的な視点でのごとをとらえることができる。
- ④ 立場や見解の異なる者に対しても公平な理解を示し、建設的な議論や判断をすることができる。
- ⑤ 学問知、実践知を自分のことばで表現し、文章や口頭で他者に伝えることができる。
- ⑥ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑦ 哲学、思想、宗教、文化の諸分野における学問的経験を活かし、未来において起る新たな思潮を理解し、つねに自らの学問を刷新しようとする意欲を有している。
- ⑧ 自らの能力を社会に還元する意思と、社会のなかで自らを高める意欲を持ち、自らの生き方について責任を果たす姿勢を身につけている。
- ⑨ コミュニティの重要性を理解し、その発展に貢献する積極性と協調性を身につけている。

1 年 次

哲学と宗教文化について基礎知識を学びます

2 年 次

哲学的なものの見方、宗教に対する客観的な見方を身につけます

3 年 次

哲学や宗教文化に関して、自分が興味を持つテーマをつかむ

4 年 次

テーマを掘り下げて探求し、その成果をまとめる

第Ⅱ類科目

基礎的知識科目群

宗教文化論	中国哲学	現代哲学 I
哲学・思想基礎論	いのちの倫理	現代哲学 II
哲学の歴史 I	いのちの教育を考える	
哲学の歴史 II	現代倫理学 I	
宗教史 I	現代倫理学 II	
宗教史 II	日本文化総論	
カルチャルスタディーズ総論		

応用的知識科目群

科学と宗教の歴史	文化人類学
東と西の思想史	現代倫理学 II
人と文化をつくる宗教	

応用的実践科目群

基礎ゼミナール III	基礎ゼミナール IV
宗教文化研究 C	比較宗教論
現代宗教論	

専門学が深化・向上

哲学・宗教課題研究 I	哲学・宗教課題研究 II	哲学・宗教課題研究 III
		哲学・宗教課題研究 IV

アカデミックスキル科目群

基礎ゼミナール I	基礎ゼミナール II
-----------	------------

宗教文化研究 A	宗教文化研究 B
	宗教文化研究 D
	学融合ゼミナール I

生活の中の宗教	マナーと人間関係を考える
	現代社会の倫理を考える

卒業研究・卒業論文

探究実証系 文学部 人文学科 国際文化コース

ディプロマポリシー

人文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて得てていこうとする学生を育成するために、人文学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 哲学、思想、宗教、文化の諸分野に関する深い教養を体系的に身につけている。
- ② 哲学、思想、宗教、文化の諸分野における研究を通じて、学問の基本的な方法を身につけている。

思考・判断・表現

- ③ 哲学、思想、宗教、文化の学問的領域の分析方法を応用し、多面かつ学際的な視点でのごとをとらえることができる。
- ④ 立場や見解の異なる者に対しても公平な理解を示し、建設的な議論や判断をすることができる。
- ⑤ 学問知、実践知を自分のことばで表現し、文章や口頭で他者に伝えることができる。
- ⑥ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑦ 哲学、思想、宗教、文化の諸分野における学問的経験を活かし、未来において起る新たな思潮を理解し、つねに自らの学問を刷新しようとする意欲を有している。
- ⑧ 自らの能力を社会に還元する意思と、社会のなかで自らを高める意欲を持ち、自らの生き方について責任を果たす姿勢を身につけていれる。
- ⑨ コミュニティの重要性を理解し、その発展に貢献する積極性と協調性を身につけている。

1 年 次

大学生活のスタートで基礎力をしっかりと身につけよう

2 年 次

専門的な研究の準備文化に対する多角的視点を理解しよう

3 年 次

さまざまな研究に取り組みながら卒業研究のテーマを考えよう

4 年 次

卒業研究のテーマを探究卒業論文をまとめよう

第Ⅱ類科目

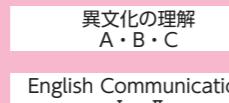
ゼミ科目



言語学

Presentation

異文化コミュニケーションの基礎



English Communication I・II

異文化特別研究 I

Global Issues

Business English

英語圏文学 I

英語学

異文化特別研究 II

Debate

Academic Writing II

英語圏文学 II

英語音声学

異文化発展ゼミナール I

国際文化発展ゼミナール II

異文化コミュニケーション I

異文化コミュニケーション II

English Communication V

English Communication VI

English Communication VII

English Communication VIII

基礎共通科目

表現文化論

文化人類学

英語表現論

カルチュラルスタディーズ総論

その他の基礎共通

《グローバルコミュニケーション》

ドイツ語コミュニケーション I → ドイツ語コミュニケーション II

中国語コミュニケーション I → 中国語コミュニケーション II

韓国語コミュニケーション I → 韓国語コミュニケーション II

卒業研究・卒業論文

第Ⅱ類科目 文学部 人文学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目 4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目 8単位必修
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎ゼミナールⅢ	2	2	
	基礎ゼミナールⅣ	2	2	
	日本文化総論	1	2	3科目 6単位以上選択必修
	日本文学総論	1	2	
	日本語学総論	1	2	
	哲学・思想基礎論	1	2	
哲学・宗教文化 分野別部門	宗教文化論	1	2	4科目 8単位必修
	カルチュラルスタディーズ総論	1	2	
	文化人類学	1	2	
	表現文化論	1	2	
	英語表現論	1	2	
	哲学の歴史Ⅰ	1 2	2	
	哲学の歴史Ⅱ	1 2	2	
	中国の哲学	1 2	2	
	現代哲学Ⅰ	2 3	2	
	現代哲学Ⅱ	2 3	2	
専門基礎	現代倫理学Ⅰ	1 2	2	4科目 8単位必修
	現代倫理学Ⅱ	1 2	2	
	宗教史Ⅰ	1 2	2	
	宗教史Ⅱ	1 2	2	
	いのちの倫理	1 2	2	
	東と西の思想史	1 2	2	
	生活のなかの宗教	1 2	2	
	科学と宗教の歴史	1 2	2	
	いのちの教育を考える	1 2	2	
	伝統礼法と教育	1 2	2	
専門応用	人と文化をつくる宗教	1 2	2	4科目 8単位必修
	宗教と教育の関係	1 2	2	
	現代社会の倫理を考える	1 2	2	
	マナーと人間関係を考える	1 2	2	
	現代宗教論	2 3	2	
	比較宗教論	2 3	2	
	宗教文化研究A	2 3	2	
	宗教文化研究B	2 3	2	
	宗教文化研究C	2 3	2	
	宗教文化研究D	2 3	2	
国際文化 分野別部門	哲学・宗教課題研究Ⅰ	3	2	4科目 8単位必修
	哲学・宗教課題研究Ⅱ	3	2	
	哲学・宗教課題研究Ⅲ	4	2	
	哲学・宗教課題研究Ⅳ	4	2	
	異文化の理解A	1	2	
	異文化の理解B	1	2	
	異文化の理解C	1	2	
	異文化コミュニケーションの基礎	1	2	
専門基礎	異文化研究の展開Ⅰ－A	2	2	4科目 8単位必修
	異文化研究の展開Ⅰ－B	2	2	
	異文化研究の展開Ⅰ－C	2	2	
	異文化研究の展開Ⅱ－A	2	2	
	異文化研究の展開Ⅱ－B	2	2	
	異文化研究の展開Ⅱ－C	2	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
国際文化 分野別部門	異文化特別研究Ⅰ	2	2	
	異文化特別研究Ⅱ	2	2	
	言語学	1	2	
	英語学	2	2	
	英語音声学	2	2	
	英語圏文学Ⅰ	2	2	
	英語圏文学Ⅱ	2	2	
	異文化コミュニケーションⅠ	3	2	
	異文化コミュニケーションⅡ	3	2	
	Academic WritingⅠ	1	2	
	Academic WritingⅡ	2	2	
	Presentation	1	2	
	Debate	2	2	
	English CommunicationⅠ	1	2	
グローバルコミュニケーション	English CommunicationⅡ	1	2	
	English CommunicationⅢ	2	2	
	English CommunicationⅣ	2	2	
	English CommunicationⅤ	3	2	
	English CommunicationⅦ	3	2	
	English CommunicationⅧ	4	2	
	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1 2 3 4	2	
	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1 2 3 4	2	
	中国語コミュニケーションⅠ	1 2 3 4	2	
	中国語コミュニケーションⅡ	1 2 3 4	2	
	韓国語コミュニケーションⅠ	1 2 3 4	2	
	韓国語コミュニケーションⅡ	1 2 3 4	2	
	国際文化発展ゼミナールⅠ	3	2	
	国際文化発展ゼミナールⅡ	3	2	
専門発展	異文化文献研究Ⅰ	3	2	
	異文化文献研究Ⅱ	3	2	
	異文化文献研究Ⅲ	4	2	
	異文化文献研究Ⅳ	4	2	
	Global Issues	2 3	2	
	Business English	2 3	2	
	国際文化課題研究Ⅰ	3	2	
	国際文化課題研究Ⅱ	3	2	
	国際文化課題研究Ⅲ	4	2	
	国際文化課題研究Ⅳ	4	2	
卒業論文	卒業論文	4	8	8単位必修

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

- [1] 別表の指示に従い履修すること。
- [2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
- [3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。
ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

国際文化コースは
4科目8単位必修

探究実証系 文学部 日本文学科

ディプロマポリシー

日本文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していくことをする学生を育成するために、日本文学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 構造的知識（総論）：日本語学・日本文学の学問領域を理解し、また日本語日本文学の発生から現在までの歴史的展開を理解しその特徴を説明できる。
- ② 構造的知識（各論）：日本語日本文学の専門分野に関する知識を有し説明できる。
- ③ 読解力：日本の古代から現代までの書き言葉・話し言葉で表現された言説の内容を客観的に理解し解釈できる。
- ④ 情報リテラシー：日本語日本文学の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し活用することができる。

思考・判断・表現

- ⑤ 批判的創造的思考力：日本語日本文学の事象に問題意識を持ち、その本質を洞察することができる。
- ⑥ 文章作成力：自らの考えを適切な語彙を用いて論理的に文章化できる。
- ⑦ 口頭伝達力：相手の話を的確に聞き取り、自分の考えや意見を相手に明確に伝えることができる。
- ⑧ 多面的重層的思考力：知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑨ 共同研究への参画：共同研究やグループワークにおいて有効な役割を担い、参加しようとする意欲、姿勢を有している。
- ⑩ 生涯学習に対する基盤と能力：生涯学び続けていくための問題意識を有している。また、地域や社会が抱える課題への持続的な関心とともに、その課題を積極的に解決するための技能を身につけようとする意欲を持っている。
- ⑪ 異文化・他者の尊重と理解：異文化や異質な存在を謙虚に理解し尊重する態度を有している。

1年次

大学生としての基礎教養を身につける

2年次

専攻する専門科目の基礎を学ぶ

3年次

テーマをしぶり調査・資料収集する

4年次

各自の設定したテーマで卒業論文を作成する

第Ⅱ類科目

日本文学・日本語学総合

基礎ゼミナール I → 基礎ゼミナール II → 基礎ゼミナール III → 基礎ゼミナール IV

日本文化総論

日本文学総論

日本語学総論

カルチャーラルスタディーズ総論

文化人類学

表現文化論

宗教文化論

哲学・思想基礎論

日本文学実践演習

日本文学踏査

基礎日本文学 A

基礎日本文学 B

基礎日本文学 C

基礎日本文学 D

基礎日本語 A

基礎日本語 B

基礎日本語 C

基礎日本語 D

日本文学系

日本文学課題研究 I → 日本文学課題研究 II → 日本文学課題研究 III → 日本文学課題研究 IV

日本語学系

日本語学課題研究 I → 日本語学課題研究 II → 日本語学課題研究 III → 日本語学課題研究 IV

専門発展 2~4年

近代文学系

近代文学研究 A

近代文学研究 E

近代文学研究 B

近代文学研究 F

近代文学研究 C

近代文学研究 D

古典文学系

古典文学研究 A

古典文学研究 E

古典文学研究 B

古典文学研究 F

古典文学研究 C

古典文学研究 D

日本語学系

音声学研究 A

日本語学研究 A

音声学研究 B

日本語学研究 B

言語学研究 A

言語学研究 B

日本文化系

仏教文学 A

書写技術研究 A

書道文化研究 A

仏教文学 B

書写技術研究 B

書道文化研究 B

詩歌研究 A

書道史 I

書道 I

詩歌研究 B

書道史 II

書道 II

専門実習 2~4年

日本語日本文学実地研修

卒業論文

■ 第Ⅱ類科目 文学部 日本文学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	4科目8単位必修 3科目6単位以上履修すること
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎ゼミナールⅢ	2	2	
	基礎ゼミナールⅣ	2	2	
	日本文学実践演習	1	2	
	日本文学踏査	1	2	
	日本文化総論	1	2	
	日本文学総論	1	2	
	日本語学総論	1	2	
	哲学・思想基礎論	1	2	
	宗教文化論	1	2	
	カルチュラルスタディーズ総論	1	2	
	文化人類学	1	2	
	表現文化論	1	2	
専門部門	基礎日本文学A	1 2	2	
	基礎日本文学B	1 2	2	
	基礎日本文学C	1 2	2	
	基礎日本文学D	1 2	2	
	基礎日本語A	1 2	2	
	基礎日本語B	1 2	2	
	基礎日本語C	1 2	2	
	基礎日本語D	1 2	2	
	古典文学研究A	2 3	2	
	古典文学研究B	2 3	2	
	古典文学研究C	2 3	2	
	古典文学研究D	2 3	2	
	古典文学研究E	2 3	2	
	古典文学研究F	2 3	2	
	古典文学研究G	2 3	2	
	古典文学研究H	2 3	2	
	詩歌研究A	2 3	2	
	詩歌研究B	2 3	2	
	近代文学研究A	2 3	2	
	近代文学研究B	2 3	2	
	近代文学研究C	2 3	2	
	近代文学研究D	2 3	2	
	近代文学研究E	2 3	2	
	近代文学研究F	2 3	2	
	日本語学研究A	2 3	2	
	日本語学研究B	2 3	2	
	日本語学研究C	2 3	2	
	日本語学研究D	2 3	2	
	音声学研究A	2 3	2	
	音声学研究B	2 3	2	
	言語学研究A	2 3	2	
	言語学研究B	2 3	2	
	仏教文学A	2 3	2	
	仏教文学B	2 3	2	
	漢文学I	2 3	2	
	漢文学II	2 3	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
専門部門	書写技術研究A	2 3	2	4科目 8単位選択必修
	書写技術研究B	2 3	2	
	書道I	2 3	2	
	書道II	2 3	2	
	書道史I	2 3	2	
	書道史II	2 3	2	
	書道文化研究A	2 3	2	
	書道文化研究B	2 3	2	
	日本文学課題研究I	3	2	
	日本文学課題研究II	3	2	
	日本文学課題研究III	4	2	
	日本文学課題研究IV	4	2	
	日本語学課題研究I	3	2	
	日本語学課題研究II	3	2	
	日本語学課題研究III	4	2	
	日本語学課題研究IV	4	2	
専門実習部門	日本語日本文学実地研修	2 3 4	2	選択科目（集中講義）
卒業論文	卒業論文	4	8	8単位必修

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の指示に従い履修すること。

[2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

[3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

探究実証系 文学部 歴史学科 日本史コース

ディプロマポリシー

歴史学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて得てていこうとする学生を育成するために、歴史学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ①歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。
- ②日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。

思考・判断・表現

- ③自らの学びの対象として設定した問題について、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域の研究方法を通じて解決することができる。
- ④自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。
- ⑤知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会人としての責任や役割を主体的に果たそうとする姿勢を身につけている。
- ⑦自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題を他者と協働しながら解決しようとする意欲を有している。

1年次

日本史研究の教養を身につける

2年次

時代に合わせた基礎的な研究方法を学ぶ

3年次

研究の方向を決定しそのための知識と技術を身につける

4年次

各自の研究テーマを決定し、精査・研究を行う

第Ⅱ類科目

専門的知識

日本史概説	歴史学入門	仏教と歴史
日本文化史 A	日本の歴史書	地域の歴史

学融合ゼミナール I

学融合ゼミナール II

ゼミ

基礎ゼミナール I	基礎ゼミナール II
-----------	------------

基礎ゼミナール III	→	基礎ゼミナール IV
-------------	---	------------

日本史系

日本古代史特講 A	日本中世史特講 A	日本古代史特講 B	日本中世史特講 B
日本近世史特講 A	日本近代史特講 A	日本近世史特講 B	日本近代史特講 B

基礎資料学

古記録講読 A	→	古記録講読 B
古文書講読 A	→	古文書講読 B

専門演習 A	→	専門演習 B
--------	---	--------

応用研究 A	→	応用研究 B
--------	---	--------

広範な知識

東洋史概説	西洋史概説	考古学概説	美術工芸史概説
環境と歴史	世界の歴史遺産	東洋文化史	中国の歴史書
自然地理学 A	人文地理学 A	文化財の見方	地誌学
歴史地理学		民俗学概論	キリスト教文化史

東洋史系 文化財・考古学系

東洋史特講	先史学特講
	考古学特講

※他分野の特講は必要に応じて選択

卒業論文

探究実証系 文学部 歴史学科 東洋史コース

ディプロマポリシー

歴史学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて得てていこうとする学生を育成するために、歴史学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ①歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。
- ②日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。

思考・判断・表現

- ③自らの学びの対象として設定した問題について、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域の研究方法を通じて解決することができる。
- ④自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。
- ⑤知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会人としての責任や役割を主体的に果たそうとする姿勢を身につけている。
- ⑦自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題を他者と協働しながら解決しようとする意欲を有している。

1年次

東洋史の基礎的な流れと知識を修得する

2年次

史料・資料の読み解力の向上をめざす

3年次

研究の方向を決定しそのための知識と技術を身につける

4年次

卒業論文に向けた各自のテーマを設定する

第Ⅱ類科目

専門的知識

歴史学入門

中国の歴史書

東洋文化史

東洋史概説

東洋史特講 A

東洋史特講 B

ゼミ

基礎ゼミナール I

基礎ゼミナール II

基礎ゼミナール III

基礎ゼミナール IV

専門演習 A

専門演習 B

基礎資料学

中国史文献講読

東洋文献講読 A

東洋文献講読 B

東洋史テーマ研究 A

東洋史テーマ研究 B

広範な知識

世界の歴史遺産

環境と歴史

地誌学

人文地理学 A

日本古代史特講

先史学特講

仏教と歴史

キリスト教文化史

歴史地理学

日本中世史特講

考古学特講

地域の歴史

西洋史概説

考古学概説

日本近世史特講

文化財特講

美術史工芸史概説

日本史概説

日本近代史特講

美術工芸史特講

卒業研究・卒業論文

※他分野の特講は必要に応じて選択

探究実証系 文学部 歴史学科 文化財・考古学コース

ディプロマポリシー

歴史学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて得てていこうとする学生を育成するために、歴史学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ①歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。
- ②日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。

思考・判断・表現

- ③自らの学びの対象として設定した問題について、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域の研究方法を通じて解決することができる。
- ④自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。
- ⑤知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑥日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会人としての責任や役割を主体的に果たそうとする姿勢を身につけている。
- ⑦自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題を他者と協働しながら解決しようとする意欲を有している。

1年次

文化財・考古学の概要を理解する

2年次

文化財・考古学について理解を深める

3年次

専攻分野を選び研究の第一歩を踏み出す

4年次

調査、研究を行い、卒業論文にまとめる

第Ⅱ類科目

文化財（美術史・工芸史）

美術工芸史概説

共通

基礎ゼミナール I

基礎ゼミナール II

文化財の見方 基礎資料学

考古学

考古学概説

広範な知識

歴史学入門

環境と歴史

西洋史概説

人文地理学 A

仏教と歴史

世界の歴史遺産

キリスト教文化史

自然地理学 A

地域の歴史

民俗学概論

歴史地理学

地誌学

学融合ゼミナール I

学融合ゼミナール II

美術工芸史特講

専門演習 A → 専門演習 B

文化財特講

文化財保存科学研究 A → 文化財保存科学研究 B

先史学特講

考古学特講

日本古代史特講

日本中世史特講

日本近世史特講

日本近代史特講

東洋史特講

卒業研究・卒業論文

第Ⅱ類科目 文学部 歴史学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
基礎部門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	5科目10単位必修 ※12単位以上
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎ゼミナールⅢ	2	2	
	基礎ゼミナールⅣ	2	2	
	歴史学入門	1	2	
	基礎資料学	1	2	
	仏教と歴史	1 2	2	
	地域の歴史	1 2	2	
	環境と歴史	1 2	2	
	世界の歴史遺産	1 2	2	
	人文地理学A	1 2	2	
	自然地理学A	1 2	2	
	歴史地理学	1 2	2	
分野別 基礎部門	日本史概説	1 2	2	注1 ※所属コースの科目を中心 ²⁴ に24単位以上
	日本文化史A	1 2	2	
	日本の歴史書	1 2	2	
	古記録講読A	2	2	
	古記録講読B	2	2	
	古文書講読A	2	2	
	古文書講読B	2	2	
	東洋史概説	1 2	2	
	東洋文化史	1 2	2	
	中国の歴史書	1 2	2	
	中国史文献講読	1	2	
	東洋文献講読A	2	2	
	東洋文献講読B	2	2	
応用部門	考古学概説	1 2	2	注2 ※所属コースの科目を中心 ¹⁴ に14単位以上
	美術工芸史概説	1 2	2	
	文化財の見方	1 2	2	
	考古学実習A	2	1	
	考古学実習B	2	1	
	日本古代史特講A	3 4	2	
	日本古代史特講B	3 4	2	
	日本中世史特講A	3 4	2	
	日本中世史特講B	3 4	2	
	日本近世史特講A	3 4	2	
	日本近世史特講B	3 4	2	
	日本近代史特講A	3 4	2	
	日本近代史特講B	3 4	2	
文化財・考古学系	日本史テーマ研究A	3 4	2	
	日本史テーマ研究B	3 4	2	
	東洋史特講A	3 4	2	
	東洋史特講B	3 4	2	
	東洋史テーマ研究A	3 4	2	
	東洋史テーマ研究B	3 4	2	
	先史学特講	3 4	2	
	考古学特講	3 4	2	
	美術工芸史特講	3 4	2	
	文化財特講	3 4	2	
文化財保存科学研究A	文化財保存科学研究A	3 4	2	次ページに続く
	文化財保存科学研究B	3 4	2	

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
関連資格部門	西洋史概説	1 2	2	※ 4 単位以上 注3
	民俗学概論	1 2	2	
	人文地理学B	2	2	
	自然地理学B	2	2	
	地誌学	2	2	
	キリスト教文化史	2	2	
	博物館概論	1 2	2	
	博物館資料論	2	2	
	博物館経営論	2	2	
	博物館資料保存論	2	2	
	博物館展示論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	2	
	博物館教育論	2	2	
	博物館実習 I - A	3	1	
	博物館実習 I - B	3	1	
	博物館実習 II	4	2	
専門研究部門	専門演習 A	3	2	4 単位必修
	専門演習 B	3	2	
	応用研究 A	4	2	4 単位必修
	応用研究 B	4	2	
卒 業 論 文	卒業論文	4	8	8 単位必修

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の指示に従い履修すること。

[2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

[3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

1. ※印の単位数は「必修」ではなく、「履修することが強く望まれる単位数」を示す。

2. 基礎ゼミナール、専門演習の履修は学科の指導にしたがうこと。

注1. 古記録講読Aを優先履修すること。

注2. 古文書講読Aを優先履修すること。

注3. 以下の科目は順次履修すること（先修制科目）。

博物館実習 I - A →博物館実習 I - B →博物館実習 II

(博物館実習 I - A・I - Bは、同一内容・同一教員を重ねて履修できない)

第Ⅲ類科目

仏教学部
心理社会学部
文学部

第Ⅲ類科目の履修方法

教職・諸資格、自己研鑽、アントレプレナーシップ育成教育プログラムに関する科目で構成され、各自の将来の目標や、専門の学びから視野を広げるための科目が開設されている。

第Ⅲ類科目は、卒業までに24単位以上修得が必要である（ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位を、20単位まで第Ⅲ類科目に繰り入れることができる<15ページ参照>）。

なお、アントレプレナーシップ育成教育プログラムに配置される基礎科目「超スマート社会論」「新共生社会論」「地域人イズム論」「アントレプレナーシップ論」の4科目のうち2科目4単位は全学生が必ず履修・修得しなければならない。

1. 教職・諸資格に関する科目

免許状や資格を取得するためには、卒業要件とは別に、法律や認定団体が定める規定に従って開講している教職・諸資格に関する科目的単位を修得しなければならない。

教職・諸資格に関する科目の一部は、第Ⅲ類科目として位置づけ、学則に定める範囲で卒業単位として認定することができる。(詳細は、ガイダンスで確認すること。)

■資格の種類

教 職 課 程	免許状
司 書 教 諭	修了証 ※教職課程と同時履修
司 書	資格証明書
学 芸 員	資格証明書
僧 階	※各宗派の履修指導に従うこと

養成講座	日本語教員養成講座	修了証
	社会教化者養成講座	修了証、浄土宗の場合は任命書
	浄土宗開教使養成講座	修了証

2. 自己研鑽に関する科目

地域を題材とした学びと活動を一体化した科目、留学生との交流や文化に触れ、世界を広げるための科目など、フィールドに出て、自ら考え、主体的に行動することを目的とした科目である。また、外国語の学びを深め、海外語学研修や協定留学へのサポートへつなげている。

3. アントレプレナーシップ育成教育プログラムに関する科目

新ビジネス開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する科目である。講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞き、地域を題材とした学びと活動を一体化したワークショップやインターンシップなどの実践的な学びを通して、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得を目指す。

プログラムは、基礎科目・スキル科目・実践科目から構成され、これらの科目を24単位以上修得することにより、修了証を授与する。

なお、基礎科目「超スマート社会論」「新共生社会論」「地域人イズム論」「アントレプレナーシップ論」の4科目のうち2科目4単位は全学生が必ず履修・修得しなければならない。

■ 第Ⅲ類科目一覧

科目分類	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
A 群 (教職)	教育基礎論	2 3	2	探究実証系学部（仏教学部、文学部、心理社会学部）はA群～I群を履修対象とする。 教職・資格に関する科目（A群～E群）の履修については、学科及び資格によって異なる。
	現代教職論	1 2 3	2	
	教育制度論	2 3	2	
	学習・発達論	2 3	2	
	特別支援教育論	2 3	1	
	教育課程論 I	2 3	2	
	教育課程論 II	2 3 4	2	
	道徳教育の指導法	2 3	2	
	総合的な学習(探究)の時間及び特別活動の指導法	2 3	2	
	教育の方法と技術 (ICT活用を含む)	2 3	2	
	生徒・進路指導論	2 3	2	
	教育相談	2 3	2	
	教育・現場体験 A	2 3 4	2	
	教育・現場体験 B	2 3 4	2	
	スクールソーシャルワーク論	2 3	2	
	教職特別研究 A	3 4	2	
	教職特別研究 B	3 4	2	
	教育実習 A (中)	3 4	5	
	教育実習 B (高)	3 4	3	
	教職実践演習 (中・高)		4	
	日本国憲法	2 3	2	
	体育	2 3	2	
	社会・地歴科教育法 I	2 3	2	
	社会・地歴科教育法 II	2 3	2	
	社会・公民科教育法 I	2 3	2	
	社会・公民科教育法 II	2 3	2	
	宗教科教育法 I	2 3	2	
	宗教科教育法 II	2 3	2	
	宗教科教育法 III	2 3	2	
	宗教科教育法 IV	2 3	2	
	英語科教育法 I	2 3	2	
	英語科教育法 II	2 3	2	
	英語科教育法 III	2 3	2	
	英語科教育法 IV	2 3	2	
	国語科教育法 I	2 3	2	
	国語科教育法 II	2 3	2	
	国語科教育法 III	2 3	2	
	国語科教育法 IV	2 3	2	
	書道科教育法 I	2 3	2	
	書道科教育法 II	2 3	2	

次ページに続く

科目分類	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
B 群 (学芸員)	生涯学習概論	2 3	2	教職・資格に関する科目（A群～E群）の履修については、学科及び資格によって異なる。
	博物館概論	2 3	2	
	博物館資料論	2 3	2	
	博物館資料保存論	2 3	2	
	博物館展示論	2 3	2	
	博物館経営論	2 3	2	
	博物館情報・メディア論	2 3 4	2	
	博物館教育論	2 3 4	2	
	仏教と歴史	2 3 4	2	
	日本の歴史書	2 3 4	2	
	中国の歴史書	2 3 4	2	
	東洋文化史	2 3 4	2	
	仏教美術研究 A	2 3 4	2	
	仏教美術研究 B	2 3 4	2	
	仏教美術研究 C	2 3 4	2	
	日本文化総論	2 3 4	2	
	日本文学総論	2 3 4	2	
	民俗学概論	2 3 4	2	
	歴史地理学	2 3 4	2	
C 群 (司書)	美術工芸史概説	2 3 4	2	
	考古学概説	2 3 4	2	
	博物館実習 I - A	3	1	
	博物館実習 I - B	3	1	
	博物館実習 II		4	
	生涯学習概論	2 3 4	2	
	図書館概論	2 3 4	2	
	図書館情報技術論	2 3 4	2	
	図書館制度・経営論	2 3 4	2	
	図書館サービス概論	2 3 4	2	
	情報サービス論	2 3 4	2	
	情報サービス演習 A	2 3 4	2	
	情報サービス演習 B	2 3 4	2	
	図書館情報資源概論	2 3 4	2	
D 群 (司書教諭)	情報資源組織論	2 3 4	2	
	情報資源組織演習 A	2 3 4	2	
	情報資源組織演習 B	2 3 4	2	
	児童サービス論	2 3 4	2	
	図書・図書館史	2 3 4	1	
	図書館サービス特論	2 3 4	1	
	図書館情報資源特論	2 3 4	1	
	図書館施設論	2 3 4	1	
	学校経営と学校図書館	2 3 4	2	
	学校図書館メディアの構成	2 3 4	2	

次ページに続く

科目分類	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
E 群 (日本語教員養成)	英語表現論	2 3 4	2	教職・資格に関する科目（A群～E群）の履修については、学科及び資格によって異なる。
	異文化の理解A	2 3 4	2	
	異文化の理解B	2 3 4	2	
	異文化の理解C	2 3 4	2	
	基礎日本文学A	2 3 4	2	
	基礎日本文学B	2 3 4	2	
	基礎日本文学C	2 3 4	2	
	基礎日本文学D	2 3 4	2	
	基礎日本語A	2 3 4	2	
	基礎日本語B	2 3 4	2	
	基礎日本語C	2 3 4	2	
	基礎日本語D	2 3 4	2	
	日本語学研究A	2 3 4	2	
	日本語学研究B	2 3 4	2	
	日本語学研究C	2 3 4	2	
	日本語学研究D	2 3 4	2	
	音声学研究A	2 3 4	2	
	音声学研究B	2 3 4	2	
	言語学研究A	2 3 4	2	
	言語学研究B	2 3 4	2	
	日本語学研究 E (語彙・意味)	2 3 4	2	
	日本語学研究 F (社会言語学)	2 3 4	2	
	日本語学研究 G (対照言語学)	2 3 4	2	
	日本語教育研究 A (教授法概論)	2 3 4	4	
	日本語教育研究 B (段階別教授法)	2 3 4	4	
	日本語教育研究 C (教材・教具)	2 3 4	4	
	心理学概説	2 3 4	2	
	学習・発達論	2 3 4	2	
	情報メディアの活用	2 3 4	2	
	日本語教育実習	3 4	1	
F 群 (自己研鑽に関する科目)	地域プロジェクト I	2 3 4	2	
	地域プロジェクト II	2 3 4	2	
	インターンシップ	2 3 4	2	
	ボランティア	1 2 3 4	2	
	仏教研修	1 2 3 4	2	
	仏教フィールドワーク	1 2 3 4	2	
	語学研修英会話	1 2 3 4	2	
	語学研修ドイツ語会話	1 2 3 4	2	
	語学研修中国語会話	1 2 3 4	2	
	語学研修韓国語会話	1 2 3 4	2	
	アメリカ文化論	1 2 3 4	2	
	ドイツ文化論	1 2 3 4	2	
	中国文化論	1 2 3 4	2	
	韓国文化論	1 2 3 4	2	
	ドイツ語コミュニケーション I	1 2 3 4	2	
	ドイツ語コミュニケーション II	1 2 3 4	2	
	中国語コミュニケーション I	1 2 3 4	2	
	中国語コミュニケーション II	1 2 3 4	2	
	韓国語コミュニケーション I	1 2 3 4	2	
	韓国語コミュニケーション II	1 2 3 4	2	

次ページに続く

科目分類	授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
G 群 (スポーツ関連科目)	スポーツ社会学	1 2 3 4	2	履修対象者は別に指定する
	スポーツ政策論	2 3 4	2	
	スポーツ行政学	2 3 4	2	
	スポーツツーリズム	3 4	2	
	スポーツとまちづくり	3 4	2	
	スポーツと社会支援	1 2 3 4	2	
	生涯スポーツ論	2 3 4	2	
	スポーツ経営学	2 3 4	2	
	スポーツビジネス論	3 4	2	
	スポーツイベント概論	3 4	2	
	スポーツ医科学	1 2 3 4	2	
	スポーツコーチング論	2 3 4	2	
	スポーツクラブマネジメント論	2 3 4	2	
	スポーツトレーニング演習	3 4	2	
	スポーツファシリティマネジメント	3 4	2	
H 群 (アントレプレナー シップ育成教育 プログラム)	超スマート社会論	2 3 4	2	4 単位選択必修 (全学生) ◆3科目6単位選択必修 ◆12単位選択必修 ◆6単位選択必修
	新共生社会論	2 3 4	2	
	地域人イズム論	2 3 4	2	
	アントレプレナーシップ論	2 3 4	2	
	ロジカルシンキング	2 3 4	2	
	データ分析技法	2 3 4	2	
	プログラミングの基礎	2 3 4	2	
	ファイナンスの基礎	2 3 4	2	
	財務会計の基礎	2 3 4	2	
	マーケティングの基礎	2 3 4	2	
	言語表現技術 I	2 3 4	2	
	言語表現技術 II	2 3 4	2	
	情報表現技術 I	2 3 4	2	
	情報表現技術 II	2 3 4	2	
	キャリア探究A	2 3 4	2	
	キャリア探究B	2 3 4	2	
	キャリアデザインA	2 3 4	2	
	キャリアデザインB	2 3 4	2	
	コミュニケーション	2 3 4	2	
	リーダーシップ	2 3 4	2	
	ファシリテーション	2 3 4	2	
	プレゼンテーション	2 3 4	2	
	マネジメント	2 3 4	2	
	ビジネス英語	2 3 4	2	
	ビジネス中国語	2 3 4	2	
	マイスターワークショップ	2 3 4	6	
	マイスターフィールドワーク	2 3 4	6	
	マイスターインターンシップ	2 3 4	6	
	短期留学	2 3 4	6	
	海外インターンシップ	2 3 4	6	

◆H群 「知識集約型社会を支える人材育成事業」

次ページに続く

アントレプレナーシップ育成教育プログラム履修者に対し必要な単位数とする。

科目分類	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
I 群 (留学生科目)	日本語研究 A	1 2 3 4	2	留学生のみ履修可能
	日本語研究 B	1 2 3 4	2	
	日本語研究 C	1 2 3 4	2	
	日本語研究 D	1 2 3 4	2	
	日本語研究 E	1 2 3 4	2	
	日本語研究 F	1 2 3 4	2	
	日本語研究 G	1 2 3 4	2	
	日本語研究 H	1 2 3 4	2	
	日本語研究 I	1 2 3 4	2	
	日本語文化研究	1 2 3 4	2	

社会創造系

第Ⅱ類科目

社会共生学部

表現学部

地域創生学部

社会創造系

社会共生学部

公共政策学科
社会福祉学科

1. 基礎ゼミナール

1年生を対象とした学科ごとのゼミナール。所属学科の学修内容のオリエンテーションをはじめ、専門課程の学修方法について学ぶ。担当教員と学修や学習生活についても話し合える場となるので、大学生活を送るための第一歩となる必修科目である。

2. 学科の基礎・分野・方法研究

学部共通部門、基礎部門、専門部門などに分類されており、学科によって履修要件が異なるが、いずれも2・3年次以降の専門科目や専門ゼミナール、4年次の卒業論文・卒業研究に発展していくための科目群である。学科の教員の指導を受けながら希望の学修に即した科目を選択していく。

3. 専門ゼミナール、プロジェクト研究、 卒業論文・卒業研究

3・4年次では、学科の学修内容の特色が明確になってくるとともに、授業の形態・方法も多様なものになってくる。学内外における実習や演習と組み合わせて展開されるものもある。

卒業論文・卒業研究は、大学で学んだ学問に向きあう集大成である。よりよい成果があげられるよう、十分な学修を積み上げていくことが大切である。

社会創造系 社会共生学部 公共政策学科

ディプロマポリシー

公共政策学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していくとする学生を育成するために、公共政策学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 社会や地域が抱える公共政策上の諸課題を解決するための政策立案に関する知識・教養を身につけている。
- ② 公共政策の分析や立案と実施に必要な政治学、社会学、経済学、法学等の基礎知識を論理的に理解している。
- ③ 得られた知識を社会や地域の課題解決の現場における実務・実践力へと高めることができる。

思考・判断・表現

- ④ 自らがテーマとした公共政策上の課題を解決するための方策について、政策学等の思考を基礎として、関連する学領域の研究手法を用いて考察することができる。
- ⑤ 修得した専門科目が扱う手法を用いて、さまざまな公共政策上の課題を発見、分析し、表現することができる。
- ⑥ 他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現、伝達できる能力を身につけている。
- ⑦ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑧ 社会や地域において、民主的で自由な社会を支えるための公共政策上の課題を解決するためのリーダー及びフォロワーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を身につけている。
- ⑨ 学領域での学修で得た知識を活用し、公共的課題を解決するための多様なニーズに応えようとしている。
- ⑩ 他者と共に目標を達成しようとする意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互の理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。

1年次

社会の仕組みや制度の概観を理論的に学びます

2年次

フィールドワーク等を通して実際の課題を発見、解決策を考えます

3年次

さまざまな分野を横断できる専門的な学びに取り組みます

4年次

自らの発見と学びを社会に還元・応用する力を身につけます

第Ⅱ類科目

学部共通部門

社会共生論

基礎部門

社会学概論	公共政策のための政治学
公共政策原論	公共政策のための法律学
経済学概論	公共政策のための行政学
社会統計学	公共政策のための財政学
社会調査法	公共政策のための情報学

公共政策の基礎 A(市民教育論)
公共政策の基礎 B(過程論)
公共政策の基礎 C(実践論)
公共政策の基礎 D(分析・評価論)
公共政策の基礎 E(合意形成論)

領域基礎部門

経済政策基礎論	福祉政策基礎論
労働政策基礎論	教育政策基礎論

環境政策基礎論	観光政策基礎論
コミュニティ政策基礎論	文化政策基礎論

生活基盤に 関連する科目	ダイバーシティ・マネジメント論 労働経済論
地域振興に 関連する科目	地域振興論 スポーツツーリズム論
環境に 関連する科目	自然環境保全論 地球環境論
観光に 関連する科目	観光産業論 文化資源論

社会保障政策論 多文化共生社会論	医療政策論 文化とメンタルヘルス	地域人材育成論
地域包括ケア論 人間環境概論	スポーツ政策論 グローバルビジネス論	スポーツ振興論
環境経済論 脱炭素社会論	環境法 環境社会学	環境教育論
観光まちづくり論 観光マーケティング論	観光資源論 観光プロモーション論	観光国際比較論

ゼミナール部門

基礎ゼミナール I	基礎ゼミナール III
基礎ゼミナール II	課題研究ゼミナール I

専門ゼミナール I	専門ゼミナール III	専門ゼミナール IV	専門ゼミナール VI
専門ゼミナール II		専門ゼミナール V	

実践部門

フィールドワーク I
フィールドワーク II

海外フィールドワーク
フィールドワーク III

卒業研究・卒業論文

■ 第Ⅱ類科目 社会共生学部 公共政策学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
学部共通部門	社会共生論	1	2	1科目2単位必修
基礎 部 門	社会学概論	2 3	2	5科目10単位以上選択必修
	経済学概論	2 3	2	
	社会統計学	2 3	2	
	社会調査法	2 3	2	
	公共政策のための政治学	2 3	2	
	公共政策のための法律学	2 3	2	
	公共政策のための行政学	2 3	2	
	公共政策のための財政学	2 3	2	
	公共政策のための情報学	2 3	2	
	公共政策原論	2 3	2	
	公共政策の基礎A（市民教育論）	2 3	2	
	公共政策の基礎B（過程論）	2 3	2	
	公共政策の基礎C（実践論）	2 3	2	
	公共政策の基礎D（分析・評価論）	2 3	2	
	公共政策の基礎E（合意形成論）	2 3	2	
領域基礎部門	経済政策基礎論	2 3	2	3科目6単位以上選択必修
	環境政策基礎論	2 3	2	
	福祉政策基礎論	2 3	2	
	観光政策基礎論	2 3	2	
	教育政策基礎論	2 3	2	
	コミュニティ政策基礎論	2 3	2	
	労働政策基礎論	2 3	2	
ゼミナール部門	文化政策基礎論	2 3	2	3科目6単位必修
	基礎ゼミナールⅠ	1	2	
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎ゼミナールⅢ	1	2	
	課題研究ゼミナールⅠ	2	1	
	課題研究ゼミナールⅡ	2	1	
	課題研究ゼミナールⅢ	2	1	
	専門ゼミナールⅠ	3	1	
	専門ゼミナールⅡ	3	1	
	専門ゼミナールⅢ	3	1	
	専門ゼミナールⅣ	4	1	
	専門ゼミナールⅤ	4	1	
政策領域部門	専門ゼミナールⅥ	4	1	5科目10単位以上選択必修
	ダイバーシティ・マネジメント論	2 3 4	2	
	社会保障政策論	2 3 4	2	
	医療政策論	2 3 4	2	
	労働経済論	2 3 4	2	
	地域振興論	2 3 4	2	
	地域包括ケア論	2 3 4	2	
	地域人材育成論	2 3 4	2	
	多文化共生社会論	2 3 4	2	
	スポーツ振興論	2 3 4	2	
	スポーツ政策論	2 3 4	2	
	文化資源論	2 3 4	2	
	文化とメンタルヘルス	2 3 4	2	
	グローバルビジネス論	2 3 4	2	
	人間環境概論	2 3 4	2	
	地球環境論	2 3 4	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
政策領域部門	環境社会学	2 3 4	2	
	自然環境保全論	2 3 4	2	
	環境教育論	2 3 4	2	
	脱炭素社会論	2 3 4	2	
	環境経済学	2 3 4	2	
	環境法	2 3 4	2	
	観光資源論	2 3 4	2	
	観光まちづくり論	2 3 4	2	
	観光マーケティング論	2 3 4	2	
	観光産業論	2 3 4	2	
	観光国際比較論	2 3 4	2	
	スポーツツーリズム論	2 3 4	2	
実践部門	観光プロモーション論	2 3 4	2	
	フィールドワークⅠ	1	6	
	フィールドワークⅡ	2	6	
	フィールドワークⅢ	3	6	
卒業研究	海外フィールドワーク	2 3	2	
	卒業研究		4 8	必修

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の指示に従い履修すること。

[2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

[3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

社会創造系 社会共生学部 社会福祉学科

ディプロマポリシー

社会福祉学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していくとする学生を育成するために、社会福祉学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 社会福祉学に基づいて人と社会を理解するために、必要な読解力と記述力、及び学問の方法を身につけている。
- ② 社会福祉学の価値・知識・技術を人と社会への支援に活用する方法を身につけている。

思考・判断・表現

- ③ 学んだことを生かして、自らの生き方及び果たすべき責任や役割について考察を深めることができる。
- ④ 社会福祉学領域の研究や方法を通じて、地域社会や身近な人々の間で生じている問題を発見し、その解決方法を判断し、不足する点の改善を図ることができる。
- ⑤ 学んだ知識、実践知について自らの考えを他者に対して的確に表現することができる。
- ⑥ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑦ 社会福祉学の学びから学修や研究課題を設定し、主体的に取り組む姿勢を有している。
- ⑧ 他者と協働し、共生社会構築の役割を担う意欲をもっている。
- ⑨ 多様な人々の価値観を受け止め、円滑な人間関係を築き、チームアプローチにより目標達成に向けて努力することができる。
- ⑩ グループの特性に応じて、適切なリーダーシップやメンバーシップを発揮する姿勢を有している。
- ⑪ 自分自身の不足する点は率直に振り返り、自身の成長につなげることができる。
- ⑫ 社会福祉学の価値・知識・技術を理解し活用できるよう、日々成果を蓄積しようとする意欲を持っている。

1 年 次

現代社会における福祉について幅広い知識を身につけます

2 年 次

ロールプレいや体験学修を通じて実践力を養います

3 年 次

現場実習・インターンシップでより実践的な知識と技術を修得します

4 年 次

卒業後の進路を意識しながら
実習などで感じた課題の解決に取り組みます

第Ⅱ類科目

学部共通部門

社会共生論

基礎部門

社会福祉入門	社会福祉原論 I
基礎ゼミナール I	基礎ゼミナール II
ソーシャルワーク論 I	仏教社会福祉論

専門部門

ソーシャルワーク論 II	ソーシャルワーク論 III
地域福祉論 I	社会福祉基礎実践
社会保障論 I	社会福祉原論 II
心理学	高齢者福祉論
	児童福祉論
	障害者福祉論
	エンド・オブ・ライフケア論
	精神保健福祉の原理
	精神保健学
	社会福祉特講 I

実習・演習部門

ソーシャルワーク演習 I	ソーシャルワーク演習 II	ソーシャルワーク演習 III
		ソーシャルワーク実習指導 I
ソーシャルワーク実習 I		

応用部門

インターンシップ I

学融合ゼミナール I

学融合ゼミナール II

司法福祉論

権利擁護を支える法制度

医療福祉論

福祉経営論

精神障害リハビリテーション論

現代貧困論

社会福祉史

スクールソーシャルワーク論

精神疾患とその治療

ソーシャルワークの理論と方法（専門）

社会福祉特講 II

社会福祉特講 III

ソーシャルワーク演習 IV

ソーシャルワーク実習指導 II

ソーシャルワーク実習 II

精神保健福祉援助実習指導 I

精神保健福祉援助演習 I

精神保健福祉援助実習 I

ソーシャルワーク演習 V

ソーシャルワーク演習 VI

ソーシャルワーク実習 III

精神保健福祉援助演習 II

精神保健福祉援助演習 III

精神保健福祉援助実習 II

卒業研究・卒業論文（必修）

■ 第Ⅱ類科目 社会共生学部 社会福祉学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
学部共通部門	社会共生論	1	2	1科目2単位必修
基礎 部 門	基礎ゼミナールⅠ	1	2	6科目12単位必修
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	社会福祉入門	1	2	
	仏教社会福祉論	1	2	
	社会福祉原論Ⅰ	1	2	
	ソーシャルワーク論Ⅰ	1	2	
専 門 部 門	社会福祉基礎実践	2	2	
	社会福祉史	3	2	
	社会福祉原論Ⅱ	2	2	
	社会保障論Ⅰ	1	2	
	社会保障論Ⅱ	2	2	
	公的扶助論	2	2	
	現代貧困論	3	2	
	ソーシャルワーク論Ⅱ	1	2	
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2	2	
	ソーシャルワーク論Ⅴ	3	2	
	ソーシャルワーク論Ⅵ	3	2	
	社会福祉調査論	3	2	
	福祉経営論	3	2	
	地域福祉論Ⅰ	1	2	
	地域福祉論Ⅱ	2	2	
	コミュニティソーシャルワーク論	3	2	
	ユニバーサルデザイン論	2	2	
	高齢者福祉論	2	2	
	介護福祉論	2	2	
	障害者福祉論	2	2	
	児童福祉論	2	2	
	スクールソーシャルワーク論	3	2	
	就労支援論	2	2	
	司法福祉論	3	2	
	権利擁護を支える法制度	3	2	
	心理学	1	2	
	社会学	2	2	
	精神保健福祉の原理	2	4	
	精神保健福祉制度論	2	2	
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	3	4	
	精神障害リハビリテーション論	3	2	
	精神保健学	2	4	
	精神疾患とその治療	3	4	
	医学概論	2	2	
	医療福祉論	3	2	
	医療ソーシャルワーク論	3	2	
	エンド・オブ・ライフケア論	2	2	
	社会福祉特講Ⅰ	2	1	
	社会福祉特講Ⅱ	3	2	
	社会福祉特講Ⅲ	4	3	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
実習・演習部門	ソーシャルワーク演習Ⅰ	1	2	I～IIは先修制 III～IVは先修制
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	4	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	4	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	4	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	2	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3	4	
	ソーシャルワーク実習Ⅲ	4	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	2	
	精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	2	
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	4	
	精神保健福祉援助実習Ⅰ	3	2	
	精神保健福祉援助実習Ⅱ	4	3	
応用部門	プロジェクト研究Ⅰ	3	4	8単位選択必修
	プロジェクト研究Ⅱ	3	4	
	プロジェクト研究Ⅲ	3	4	
	プロジェクト研究Ⅳ	3	4	
	インターンシップⅠ	2	3	
	インターンシップⅡ	3	4	
卒業研究・卒業論文	卒業研究		4	8単位選択必修
	卒業論文		4	

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の指示に従い履修すること。

[2] 卒業までに136単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

[3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計82単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

●精神保健福祉士指定科目的履修は別に定める条件を満たしていること。

**■ 第Ⅱ類科目 社会共生学部 社会福祉学科
社会福祉士・精神保健福祉士 指定科目**

部 門	法定科目	本学開講科目	単位	備 考
社会福祉士 指定科目	医学概論	医学概論	2	必修
	心理学と心理的支援	心理学	2	
	社会学と社会システム	社会学	2	
	社会福祉の原理と政策	社会福祉原論Ⅰ	2	
		社会福祉原論Ⅱ	2	
	社会福祉調査の基礎	社会福祉調査論	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	
		ソーシャルワーク論Ⅳ	2	
	(専門)	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	
		ソーシャルワーク論Ⅵ	2	
	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論Ⅰ	2	
		地域福祉論Ⅱ	2	
	福祉サービスの組織と経営	福祉経営論	2	
	社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
		社会保障論Ⅱ	2	
	高齢者福祉	高齢者福祉論	2	
	障害者福祉	障害者福祉論	2	
	児童・家庭福祉	児童福祉論	2	
	貧困に対する支援	公的扶助論	2	
	保健医療と福祉	医療福祉論	2	
	権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2	
	刑事司法と福祉	司法福祉論	2	
	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1年次履修 2年次履修 2年次履修 3年次履修 4年次履修
	ソーシャルワーク演習 (専門)	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	
	ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2年次履修 3年次履修
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	
	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	2年次履修 60時間実習 3年次履修 180時間実習 計240時間実習
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	

部 門	法定科目	本学開講科目	単位	備 考
精神保健 福祉士 指定科目	医学概論	医学概論	2	必修
	心理学と心理的支援	心理学	2	
	社会学と社会システム	社会学	2	
	社会福祉の原理と政策	社会福祉原論Ⅰ	2	
		社会福祉原論Ⅱ	2	
	社会福祉調査の基礎	社会福祉調査論	2	
	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論Ⅰ	2	
		地域福祉論Ⅱ	2	
	社会保障	社会保障論Ⅰ	2	
		社会保障論Ⅱ	2	
	権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	2	
	刑事司法と福祉	司法福祉論	2	
	障害者福祉	障害者福祉論	2	
	精神医学と精神医療	精神疾患とその治療	4	
	現代の精神保健の課題と支援	精神保健学	4	
	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	
	精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理	4	
	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	
		ソーシャルワーク論Ⅳ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	4	
	精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	2	
	精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	2	
	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク演習 (専門)	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	1年次履修
		精神保健福祉援助演習Ⅱ	2	3年次履修
		精神保健福祉援助演習Ⅲ	2	4年次履修
	ソーシャルワーク実習指導	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	4年次履修
		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	3年次履修
	ソーシャルワーク実習	精神保健福祉援助実習Ⅰ	2	4年次履修 90時間実習
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	3	4年次履修 120時間実習 計210時間実習

履修についての注意事項	詳細な内容はガイダンスで説明する。
-------------	-------------------

社会創造系

表現学部

表現文化学科

1. ワークショップ・専門ゼミナール

実践を通じて、柔軟な思考力と表現技術を身につける。

- *コース別ワークショップ：各コースの専門性を重視したテーマに取り組み、自分の将来像につなげる「表現」を身につける。
- *各学年のPBLを通して、協働・企画・創造・運営等、表現に関わる者としての基底について実践し、身につけ、それぞれの表現活動に結びつける。

2. 表現する—書く・話す・撮る・みせる

書くこと／話すことで世界とつながる。映像や音声で自分の考えを発信する。自分の作品で他人を楽しませる。卒業時には、学生のみなさんが大学において学んだことの集大成を形にしていくよう、1年次のリベラルアーツ・表現基礎ゼミナールを通して、表現を学ぶ者としての基礎力を身につける。表現に共通する基礎、各コースの基礎を学ぶことによって基礎学修を進めることになる。そして、2年次からの専門学修を1歩1歩進めていくことが大切である。

3. 自分の作品・研究の集大成

4年間の学修を経て、自分の作品、研究の集大成をおこなう。そのためには、専門コースの基礎的技法を確実に身につけ、自らの作品を、他者の評価を通して練り上げていくことが不可欠である。

社会創造系 表現学部 表現文化学科

ディプロマポリシー

表現文化学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していくとする学生を育成するために、表現文化学科の教育課程を修了し、右の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 情報社会／現代社会の機構 (mechanism) を高度に分析、自己の表現技能において活用できる。
- ② 情報社会／現代社会の機能 (function) を知り、自己の表現技能において活用できる。
- ③ 情報社会／現代社会における組織 (system) を高度に分析、組織を活用した表現技能を有している。
- ④ 専門課程で学ぶプロフェッショナルな技能により、総合的に自分を表現する方法を持ち、社会に向けて、自らの考えを発信できる。
- ⑤ 自ら設定した表現課題 (情報文化デザイン、クリエイティブライティング、街文化プランニング、放送・映像メディア、アート&エンターテインメントワーク) の知的領域の表現方法を理解し、構想することができる。

思考・判断・表現

- ⑥ ハードウェア／ソフトウェア、ファインアート／エンターテインメント、メインカルチャー／サブカルチャー、純文学／大衆芸芸、など従来の二項対立を無批判に受け入れることなく、現代の動向への確かな認識を踏まえた上で、問題を自ら発見し、クリエイティブな思考、判断をすることができる。
- ⑦ 多様な価値観を理解し、自らの意見を、論理的・創造的に再構築、社会一般に伝達することができる。
- ⑧ メディアリテラシーと倫理に関する知識を基準にして、コミュニケーション・情報発信できる。
- ⑨ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑩ 日常生活【自らの身体を通じての世界との接触】とヴァーチャル生活【メディアを通じての世界との接触】との二元的認識が所与の条件となった現代社会において、片方に偏することなく中道精神を貫くことができる。
- ⑪ 自らの作品や表現をいかにデザインし、社会の発展に活かすためのオペレーションを身につけている。
- ⑫ 他者の作品や表現を評価するにあたっては、クリエイターの個性を尊重する態度とともに、深く理解した上で正当な評価をしようとする姿勢を身につけている。
- ⑬ 他者と協働しながら作品を創造することの喜びや有用性を知悉しており、共同作品を作成する意欲を有している。

1 年 次

リベラルアーツと専門科目入門

2 年 次

専門科目基礎

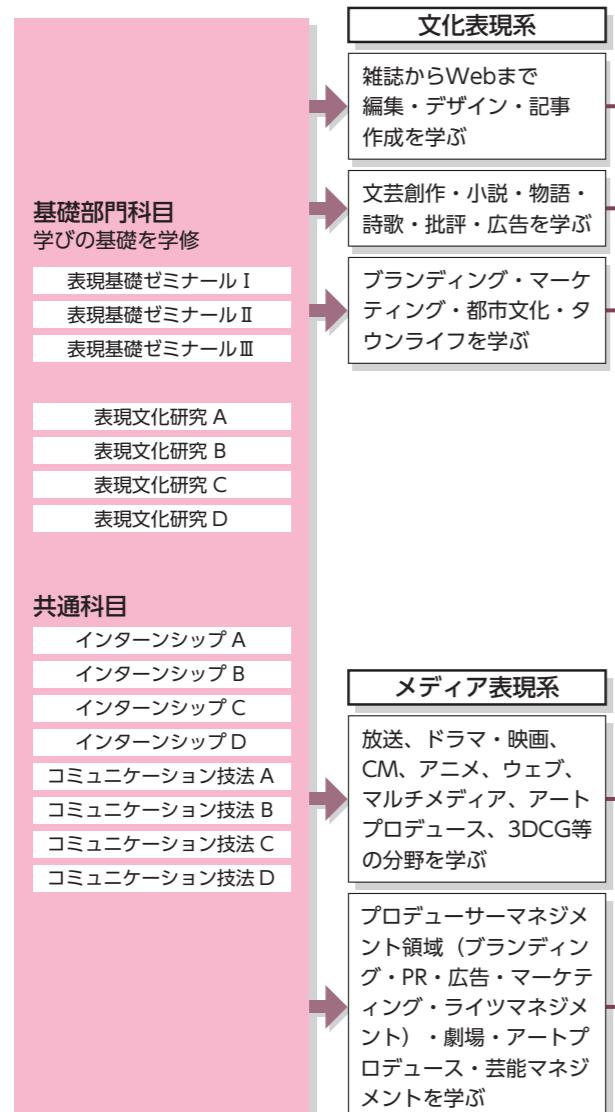
3 年 次

専門科目展開

4 年 次

専門科目発展 卒業制作／卒業論文

第Ⅱ類科目



PBL I

PBL II

PBL III

第Ⅱ類科目 表現学部 表現文化学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目 4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
基礎 部 門	表現基礎ゼミナールⅠ	1	2	6単位以上選択必修
	表現基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	表現基礎ゼミナールⅢ	1	2	
	表現文化研究A	2 3 4	1	
	表現文化研究B	2 3 4	1	
	表現文化研究C	2 3 4	1	
	表現文化研究D	2 3 4	1	
研究 部 門	クリエイティブライティング研究A	2 3 4	2	ワークショップ、専門ゼミナーなど必修を含め、専門とする分野を中心に70単位以上修得すること
	クリエイティブライティング研究B	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング研究C	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング研究D	2 3 4	2	
	情報文化デザイン研究A	2 3 4	2	
	情報文化デザイン研究B	2 3 4	2	
	情報文化デザイン研究C	2 3 4	2	
	情報文化デザイン研究D	2 3 4	2	
	街文化プランニング研究A	2 3 4	2	
	街文化プランニング研究B	2 3 4	2	
	街文化プランニング研究C	2 3 4	2	
	街文化プランニング研究D	2 3 4	2	
	ライフデザイン研究A	2 3 4	2	
	ライフデザイン研究B	2 3 4	2	
	ライフデザイン研究C	2 3 4	2	
	ライフデザイン研究D	2 3 4	2	
	放送・映像メディア研究A	2 3 4	2	
	放送・映像メディア研究B	2 3 4	2	
	放送・映像メディア研究C	2 3 4	2	
	放送・映像メディア研究D	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク研究A	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク研究B	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク研究C	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク研究D	2 3 4	2	
演習 部 門	クリエイティブライティング演習A	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習B	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習C	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習D	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習E	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習F	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習G	2 3 4	2	
	クリエイティブライティング演習H	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習A	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習B	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習C	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習D	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習E	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習F	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習G	2 3 4	2	
	情報文化デザイン演習H	2 3 4	2	
	街文化プランニング演習A	2 3 4	2	
	街文化プランニング演習B	2 3 4	2	
	街文化プランニング演習C	2 3 4	2	
	街文化プランニング演習D	2 3 4	2	
	街文化プランニング演習E	2 3 4	2	
	街文化プランニング演習F	2 3 4	2	
	街文化プランニング演習G	2 3 4	2	
	街文化プランニング演習H	2 3 4	2	

次ページに続く

部 門	授業科目の名称	履修年次	単位	備 考
演習部門	ライフデザイン演習A	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習B	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習C	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習D	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習E	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習F	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習G	2 3 4	2	
	ライフデザイン演習H	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習A	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習B	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習C	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習D	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習E	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習F	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習G	2 3 4	2	
	放送・映像メディア演習H	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習A	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習B	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習C	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習D	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習E	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習F	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習G	2 3 4	2	
	アート&エンターテインメントワーク演習H	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法A	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法B	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法C	2 3 4	2	
	コミュニケーション技法D	2 3 4	2	
P B L	インターンシップA	1 2 3 4	1	
	インターンシップB	1 2 3 4	1	
	インターンシップC	1 2 3	1	
	インターンシップD	1 2 3	1	
ワークショップ	PBL I	1	6	必修
	PBL II	2	6	
	PBL III	3	6	
専門ゼミナール	ワークショップI	2	3	必修
	ワークショップII	2	3	
	ワークショップIII	2	3	
卒業研究	専門ゼミナールI	3 4	3	必修
	専門ゼミナールII	3 4	3	
	専門ゼミナールIII	3 4	3	
	専門ゼミナールIV	3 4	3	
	専門ゼミナールV	3 4	3	
	専門ゼミナールVI	3 4	3	
卒業研究	卒業論文		4 8	8 単位選択必修
	卒業制作		4 8	

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

[1] 別表の指示に従い履修すること。

[2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。

[3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。

ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

社会創造系

地域創生学部

地域創生学科

1. 地域実習、フィールドワーク方法論

1年生から3年生は毎年第3クオーターで地域実習に取り組む。少人数のチーム編成で地域創生の実践知を習得する。実習の準備とまとめはフィールドワーク方法論で一年間を通して行う。

2. 経済学、経営学を中心とする理論科目

経済学・経営学の必修科目を軸として、地域創生に関する多様な理論を選択することができる。専門の学びへの導入として、1年次には経済の基礎、経済学入門、経営学入門、地域創生学入門を全員が履修する。

3. 地域創生学ゼミナール、卒業研究

3年生から4年生は、地域創生学ゼミナールで実習経験と理論知を個人研究に発展させる。教員の専門分野に刺激を受け、各人の地域創生への取り組みを学問的に分析・表現する手法を習得し、卒業研究を仕上げる。

社会創造系 地域創生学部 地域創生学科

ディプロマポリシー

地域創生学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していくとする学生を育成するために、地域創生学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能

- ① 地域社会が直面している諸課題を深く考え、解決に向けた地域再生の取組や地域価値の創造に関する知識・教養を身につけている。
- ② 地域創生に必要な経済学・経営学・社会学等の基礎的知識を論理的に理解している。
- ③ 学問領域で得た知識を、地域創生や地域振興の現場での実践力へと高めることができる。

思考・判断・表現

- ④ 自らがテーマとした地域創生や地域活性化の方策について、経済・経営学的な思考を基礎として、関連する学問領域の研究手法を用いて考察することができる。
- ⑤ 経済学や経営学の知識や手法を用いて、地域の潜在的価値や能力、課題を発見できる。
- ⑥ 他者の意見を取り入れ、自らの考えを的確に表現・伝達できる能力を身につけている。
- ⑦ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

関心・意欲・態度

- ⑧ 地域社会において地域創生や地域振興のリーダーとして、自身の役割を自覚し、課題を積極的に解決しようとする姿勢を有している。
- ⑨ 学問領域で得た知識を活用し、地域創生や地域活性化の多様なニーズに応えようとする意欲や行動力を身につけている。
- ⑩ 他者と共に目標を達成することの意義を理解し、コミュニケーションを通じて相互理解や合意形成を実現しようとする姿勢が醸成されている。

1 年 次

教養科目により地域とつながる多角的な視点を身に付け、学びに向けた準備をします

2 年 次

地方で体験したことを伝える技術を磨き
専門を身に付ける基礎を学びます

3 年 次

地域課題解決に向けた専門性を身に付け
地域の貢献にむけた挑戦をします

4 年 次

自ら地域課題を設定し経済や経営的視点から
学術的なアプローチを試行します

第Ⅱ類科目

フィールドワーク方法論 I - I
フィールドワーク方法論 I - II

フィールドワーク方法論 I - III
フィールドワーク方法論 II - I
フィールドワーク方法論 II - II

フィールドワーク
方法論 II - III

フィールドワーク方法論 III - I
フィールドワーク方法論 III - II

フィールドワーク
方法論 III - III

地域実習 I 準備学修

地域実習 I

地域実習 I 振り返り

地域実習 II 準備学修

地域実習 II

地域実習 II 振り返り

地域実習 III 準備学修

地域実習 III

地域実習 III 振り返り

個人研究 取り組み

経済の基礎 I・II

経済学入門

経済原論（基礎編）

経済原論（応用編）

グローバル化と日本経済
経済思想史

地域経済学

地域経済政策論

産業組織論
財政学
金融論
公共経済学
地方財政論
環境経済学

経済理論

経営学入門

マーケティング論

流通論

経営組織論

人的資源管理論

中小企業論
地域イノベーション論

地域起業論
経営戦略論

理論学修
地域実習の学びと運動した専門必修
興味に応じて学べる選択科目

地域創生学入門 I・II

地域創生学 I

地域創生学 II

地域合意形成論
観光学概論

多文化共生の哲学
環境政策論

スポーツ・ツーリズム論

統計学とその応用

地域創生理論

■ 第Ⅱ類科目 地域創生学部 地域創生学科 授業科目一覧

全学共通第Ⅱ類科目（必修科目）

部 門	授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
全 学 共 通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	2科目4単位必修
理論科目群	経済の基礎Ⅰ	1	1	
	経済の基礎Ⅱ	1	1	
	経済学入門	1	1	
	経営学入門	1	1	
	地域創生学入門Ⅰ	1	1	
	地域創生学入門Ⅱ	1	1	
	経済原論（基礎編）	2	2	
	経済原論（応用編）	2	2	
	流通論	2 3 4	2	
	経営組織論	2 3 4	2	
	地域経済学	3	2	
	地域経済政策論	3	2	
	グローバル化と日本経済	2	2	
	マーケティング論	2 3 4	2	
	地域創生学Ⅰ	2	2	
	地域創生学Ⅱ	2	2	
	財政学	3 4	2	
	金融論	3 4	2	
	経済思想史	2 3 4	2	
	産業組織論	3 4	2	
	地方財政論	3 4	2	
	地域起業論	3 4	2	
	経営戦略論	3 4	2	
	地域イノベーション論	3 4	2	
	中小企業論	3 4	2	
	NPO・市民活動論	2 3 4	2	
	地域コミュニティ論	2 3 4	2	
	地域合意形成論	3 4	2	
	地域教育政策論	2 3 4	2	
	地域教育活動論	2 3 4	2	
	スポーツ・ツーリズム論	3 4	2	
	環境政策論	3 4	2	
	観光学概論	3 4	2	
	多文化共生の哲学	3 4	2	
	フィールド調査法	2 3 4	2	
統計学とその応用	3 4	2		
人的資源管理論	3 4	2		
公共経済学	3 4	2		
環境経済学	3 4	2		
地域課題解決実践論Ⅰ	2 3	1		
地域課題解決実践論Ⅱ	2 3	1		
地域課題解決実践論Ⅲ	2 3	1		

次ページに続く

部 門		授業科目の名称		履修年次		単位	備 考
実践科目群	ゼミナール科目	地域創生学ゼミナール I - I		3		1	6単位必修
		地域創生学ゼミナール I - II		3		1	
		地域創生学ゼミナール I - III		3		1	
		地域創生学ゼミナール II - I			4	1	
		地域創生学ゼミナール II - II			4	1	
		地域創生学ゼミナール II - III			4	1	
	実習科目	フィールドワーク方法論 I - I	1			1	27単位必修
		フィールドワーク方法論 I - II	1			1	
		フィールドワーク方法論 I - III	1			1	
		フィールドワーク方法論 II - I		2		1	
		フィールドワーク方法論 II - II		2		1	
		フィールドワーク方法論 II - III		2		1	
	卒業論文 卒業研究	フィールドワーク方法論 III - I		3		1	8単位以上選択必修
		フィールドワーク方法論 III - II		3		1	
		フィールドワーク方法論 III - III		3		1	
	卒業論文 卒業研究	地域実習 I	1			6	8単位以上選択必修
		地域実習 II		2		6	
		地域実習 III			3	6	

●履修にあたっては以下のルールに従うこと。ただし、必ず学科の指導を受けること。

- [1] 別表の指示に従い履修すること。
- [2] 卒業までに124単位以上（第Ⅰ類科目は30単位、第Ⅲ類科目は24単位以上）修得すること。
- [3] 必修（全学共通第Ⅱ類科目を含む）を含めて、第Ⅱ類科目を合計70単位以上修得すること。
ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までは第Ⅲ類科目に繰り入れることができる。

第Ⅲ類科目

社会共生学部
表現学部
地域創生学部

第Ⅲ類科目の履修方法

自己研鑽、アントレプレナーシップ育成教育プログラムに関する科目で構成され、各自の将来の目標や、専門の学びから視野を広げるための科目が開設されている。

第Ⅲ類科目は、卒業までに24単位以上修得が必要である（ただし、第Ⅱ類科目として修得した単位を、20単位まで第Ⅲ類科目に繰り入れることができる<15ページ参照>）。

なお、アントレプレナーシップ育成教育プログラムに配置される基礎科目「超スマート社会論」「新共生社会論」「地域人イズム論」「アントレプレナーシップ論」の4科目のうち2科目4単位は全学生が必ず履修・修得しなければならない。

1. 自己研鑽に関する科目

地域を題材とした学びと活動を一体化した科目、留学生との交流や文化に触れ、世界を広げるための科目など、フィールドに出て、自ら考え、主体的に行動することを目的とした科目ある。また、外国語の学びを深め、海外語学研修や協定留学へのサポートへつなげている。

2. アントレプレナーシップ育成教育プログラムに関する科目

新ビジネス開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する科目である。講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞き、地域を題材とした学びと活動を一体化したワークショップやインターンシップなどの実践的な学びを通して、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得を目指す。

プログラムは、基礎科目・スキル科目・実践科目から構成され、これらの科目を24単位以上修得することにより、修了証を授与する。

なお、基礎科目「超スマート社会論」「新共生社会論」「地域人イズム論」「アントレプレナーシップ論」の4科目のうち2科目4単位は全学生が必ず履修・修得しなければならない。

■ 第Ⅲ類科目一覧

科目分類	授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
F 群 (自己研鑽に関する科目)	地域プロジェクトⅠ	2 3 4	2	社会創造系学部（社会共生学部、表現学部、地域創生学部）はF群及びH、I群を履修対象とする。
	地域プロジェクトⅡ	2 3 4	2	
	インターンシップ	2 3 4	2	
	ボランティア	1 2 3 4	2	
	仏教研修	1 2 3 4	2	
	仏教フィールドワーク	1 2 3 4	2	
	語学研修英会話	1 2 3 4	2	
	語学研修ドイツ語会話	1 2 3 4	2	
	語学研修中国語会話	1 2 3 4	2	
	語学研修韓国語会話	1 2 3 4	2	
	アメリカ文化論	1 2 3 4	2	
	ドイツ文化論	1 2 3 4	2	
	中国文化論	1 2 3 4	2	
	韓国文化論	1 2 3 4	2	
	ドイツ語コミュニケーションⅠ	1 2 3 4	2	
	ドイツ語コミュニケーションⅡ	1 2 3 4	2	
	中国語コミュニケーションⅠ	1 2 3 4	2	
	中国語コミュニケーションⅡ	1 2 3 4	2	
G 群 (スポーツ関連科目)	韓国語コミュニケーションⅠ	1 2 3 4	2	履修対象者は別に指定する
	韓国語コミュニケーションⅡ	1 2 3 4	2	
	スポーツ社会学	1 2 3 4	2	
	スポーツ政策論	2 3 4	2	
	スポーツ行政学	2 3 4	2	
	スポーツツーリズム	3 4	2	
	スポーツとまちづくり	3 4	2	
	スポーツと社会支援	1 2 3 4	2	
	生涯スポーツ論	2 3 4	2	
	スポーツ経営学	2 3 4	2	
	スポーツビジネス論	3 4	2	
	スポーツイベント概論	3 4	2	
	スポーツ医科学	1 2 3 4	2	
	スポーツコーチング論	2 3 4	2	
	スポーツクラブマネジメント論	2 3 4	2	
H 群 (アントレプレナーシップ育成教育プログラム)	スポーツトレーニング演習	3 4	2	4 単位選択必修（全学生） ◆3科目6単位選択必修 ◆12単位選択必修
	スポーツファシリティマネジメント	3 4	2	
	超スマート社会論	2 3 4	2	
	新共生社会論	2 3 4	2	
	地域人イズム論	2 3 4	2	
	アントレプレナーシップ論	2 3 4	2	
	ロジカルシンキング	2 3 4	2	
	データ分析技法	2 3 4	2	
	プログラミングの基礎	2 3 4	2	
	ファイナンスの基礎	2 3 4	2	
	財務会計の基礎	2 3 4	2	
	マーケティングの基礎	2 3 4	2	

◆H群「知識集約型社会を支える人材育成事業」

次ページに続く

アントレプレナーシップ育成教育プログラム履修者に対し必要な単位数とする。

科目分類	授業科目的名称	履修年次	単位	備 考
H 群 (アントレプレナー シップ育成教育 プログラム)	情報表現技術 I	2 3 4	2	
	情報表現技術 II	2 3 4	2	
	キャリア探究A	2 3 4	2	
	キャリア探究B	2 3 4	2	
	キャリアデザインA	2 3 4	2	
	キャリアデザインB	2 3 4	2	
	コミュニケーション	2 3 4	2	
	リーダーシップ	2 3 4	2	
	ファシリテーション	2 3 4	2	
	プレゼンテーション	2 3 4	2	
	マネジメント	2 3 4	2	
	ビジネス英語	2 3 4	2	
	ビジネス中国語	2 3 4	2	
	マイスターワークショップ	2 3 4	6	
	マイスターフィールドワーク	2 3 4	6	
	マイスターインターンシップ	2 3 4	6	
I 群 (留学生科目)	短期留学	2 3 4	6	
	海外インターンシップ	2 3 4	6	
	日本語研究 A	1 2 3 4	2	
	日本語研究 B	1 2 3 4	2	
	日本語研究 C	1 2 3 4	2	
	日本語研究 D	1 2 3 4	2	
	日本語研究 E	1 2 3 4	2	
	日本語研究 F	1 2 3 4	2	
	日本語研究 G	1 2 3 4	2	
	日本語研究 H	1 2 3 4	2	
	日本語研究 I	1 2 3 4	2	
	日本語文化研究	1 2 3 4	2	

◆H群「知識集約型社会を支える人材育成事業」

アントレプレナーシップ育成教育プログラム履修者に対し必要な単位数とする。

◆ 6 単位選択必修

留学生のみ履修可能

FAQ

■ 履修登録について

- Q1 授業期間前に履修登録がありますが、授業を聞いてからの変更はできますか？** ➡ A1 できます。ただし、履修登録科目を変更する場合は、修正登録期間にT-Poで修正登録をしてください。
- Q2 登録科目名はあるいるが、クラス表記が違うのですがどうすればいいですか？** ➡ A2 修正登録期間内に該当クラスへ修正してください。
- Q3 通年科目の登録は春学期と秋学期にわけて登録するのですか？** ➡ A3 通年科目は、春学期に登録すれば（秋学期分も自動的に）通年科目として登録されます。秋学期での登録は不要です。
- Q4 春学期に登録した通年科目を、秋学期に削除することはできますか？** ➡ A4 できません。通年科目を履修登録するときは、履修計画にしたがって登録してください。
- Q5 集中講義の登録はどうすればいいですか？** ➡ A5 T-Poにて登録時期を確認し、T-Poから登録をしてください。
- Q6 制限単位についてですが、通年科目の単位数は春学期に換算されるのですか？** ➡ A6 春学期と秋学期にわかれてカウントされます。
- Q7 セメスターごとに定められている単位数以上登録したいのですが、可能ですか？** ➡ A7 できません。
- Q8 必修科目と資格科目の時間が重なってしまいます。どちらを履修すればいいですか？** ➡ A8 卒業を優先する場合は必修科目を先に履修してください。
- Q9 資格登録をしていませんが、資格科目を履修できますか？** ➡ A9 履修できません。ただし、その科目が1年生から履修可能な科目や、所属学科の科目の場合は履修できます。
- Q10 登録した授業を削除したいのですが、どうすればいいですか？** ➡ A10 修正登録期間にT-Poで削除してください。
- Q11 履修登録ができていなくても、先生に頼めば単位をもらえますか？** ➡ A11 履修登録を行っていなければ、単位の認定はできません。履修登録は、指定期間内に行ってください。
- Q12 履修登録でエラーがでました。どうすればいいですか？** ➡ A12 T-Poでの履修登録は、エラーの状態では完了できません。必ずエラーの原因を削除し、再チェックのうえ完了してください。
- Q13 科目を登録したのですが、授業内容が異なっていたため出席しないでそのままにしてしまいました。どうすればいいですか？** ➡ A13 登録したままでは、GPAに反映されてしまい、進級基準に影響することがあります。修正登録期間内に削除してください。なお、修正登録期間外では受け付けません。
- Q14 4年生ですが、もう卒業論文しかありません。何も登録しなくても大丈夫ですか？** ➡ A14 登録は必要ありませんが、各学科で定期的な論文指導がありますので確認してください。なお、卒業に必要な科目・単位数が修得できているかを必ず学則別表（ガイドンス資料）で確認してください。
- Q15 修正登録をしたのですが、授業で名前が呼ばれません。どうしたらいいですか？** ➡ A15 科目の登録ができていない可能性があります。T-Poにて自分の時間割を確認してください。時間割に反映されていなければ、履修登録ができていないため、単位の認定はできません。

■ 授業等について

- Q1 授業を休んでも大丈夫ですか？ ➔ A1** 単位認定を受けるためには、毎回出席することが原則です。
- Q2 履修年次が「1年」とある科目は、必ず1年うちに履修しなければいけませんか？ ➔ A2** 1年次に履修することが望ましい科目です。その科目の単位を取得していないことにより進級できないということはありません。しかし、先修制科目（順を追って履修しなければならない科目）に該当する場合は、該当科目が修得できていなければ、次の科目に進めません。
- Q3 就職活動で授業を休んだ場合、公欠になりますか？ ➔ A3** 公欠にはなりません。就職活動の場合は、キャリアセンターで授業欠席証明書を発行しますので、その証明書を担当教員に提出してください。なお、あくまでも欠席理由を証明するもので、その取扱いは担当教員の判断によります。
- Q4 電車が遅延により授業を欠席した（または遅れた）のですが、どうしたらいいですか？ ➔ A4** 各交通機関（駅）から遅延証明書を発行してもらってください。遅延証明書を受け取り、該当科目の担当教員に提出してください。なお、試験時の遅刻についても同様です。
- Q5 台風や体調不良のため授業やテストが受けられないとき、どうしたらいいですか？ ➔ A5** 交通機関の運休や自然災害等が発生した場合代替日を設けます。案内はT-Poにて行いますので確認を忘れないように注意してください。
病気で欠席した場合
【授業】医師の診断を受けて診断書を発行してもらい、担当教員に提出してください。その取扱いは担当教員の判断によります。
【試験】必ず医師の診断を受けて診断書を発行してもらってください。担当教員に理由を伝え、相談してください。担当教員の判断により、課題等による機会が設けられる場合があります。
- Q6 試験の週は、時間帯や教室は変更になりますか？ ➔ A6** 試験は通常の授業時間帯で実施されます。教室に関しても原則として変更はありません。
- Q7 電話で休講情報を教えてもらえますか？ ➔ A7** 電話での問い合わせにはお答えしていません。T-Poで確認してください。
- Q8 レポートなどの課題提出先がわかりません。 ➔ A8** 教務課では、教員の住所を教えることはできません。事前に、授業の始めからしくは終わりに課題提出先を担当教員に確認してください。

■ 卒業について

- Q1 卒業論文を提出して、各学科の卒業単位を満たしていれば卒業できますか？ ➔ A1** 第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目を卒業要件に沿って規定どおり単位修得できているか、確認する必要があります。P.15と学則別表（ガイドンス資料）を確認してください。
- Q2 卒業論文・卒業研究は卒業単位の内にカウントされますか？ ➔ A2** 卒業論文・卒業研究の8単位は、卒業単位に含まれます。
- Q3 卒業論文・卒業研究を提出したら終わりですか？ ➔ A3** 卒業論文を提出した後、口述試問が実施されます。口述試問の期間は各学科により異なりますので、それぞれの学科で確認してください。
- Q4 資格取得を目指して修得した単位は、資格をあきらめた後でも卒業単位として認定できますか？ ➔ A4** 第Ⅲ類科目として認定します。

■ 成績通知表について

- Q1 卒業論文の欄が「Z」になっているのです ➔ A1 卒業論文論題登録し、論文を提出しなかったことに対する評価です。
- Q2 評価に関して疑問があるのですが、どうすればいいですか？ ➔ A2 成績評価確認申請期間内に、評価「D」または、評価「Z」の科目のみ教務課窓口で疑問を受け付けます。申請期間については、各学期末にT-Poでお知らせ予定です。
- Q3 成績通知表を紛失してしまいました。再発行してもらえますか？ ➔ A3 再発行はしていません。修得した単位は、T-Poで確認ができます。

■ 資格について

- Q1 資格登録はどこで行えばよいですか？ ➔ A1 登録方法や履修登録期間は、ガイダンス資料を使って説明します。そのためガイダンスには必ず出席するようにしてください。
- Q2 教員免許をとりたいのですが、どうすればいいですか？ ➔ A2 1年次秋学期の教職ガイダンスに出席し、資格登録してください。資格登録後は、各学年の教職課程履修ガイダンスに出席してください。
- Q3 資格の科目が足りずに卒業となってしまい、卒業後、科目等履修生として足りない科目的単位を修得して資格を取得することができますか？ ➔ A3 科目等履修生として、資格に必要な単位が充足できれば、資格を取得することができます。
- Q4 資格の認定証や修了証はいつもらえますか？ ➔ A4 卒業時に認定証・修了証を授与します。
- Q5 現在3年生なのですが、今からでも資格はとれますか？ ➔ A5 資格登録は行えますが、諸資格科目的履修は、2年次から4年次までの3年間でカリキュラムが組まれていますので、資格取得に必要な単位を卒業までに修得できるとは限りません。

■ その他

- Q1 先生が、大学にいつ来ているか教えてください。
どこにいるか教えてください。 ➔ A1 専任教員については、大学ホームページ「知のナビゲータ（教員紹介）」から確認することができます。あるいは、各学科で確認してください。非常勤教員は、基本的に授業がある曜日・時限のみ出校しています。
- Q2 授業で配られた大正大学書式の原稿用紙・レポート用紙は自由にもらうことができますか？ ➔ A2 窓口等では配布していません。担当教員から受け取ってください。
- Q3 転学部・転学科・転コースを希望しているのですが、どうしたらいいですか？ ➔ A3 欠員が生じている学科のみが実施します。転学部・転学科・転コース試験が実施されるかどうかは、11月（予定）にT-Poで確認してください。

規 程

大正大学履修規程

大正大学試験規程

大正大学学則

(抜粋)

大正大学履修規程

(目的)

第1条 この規程は、大正大学学則（以下「学則」という。）のうち、履修等について必要な事項を定めることを目的とする。

(授業科目の履修)

第2条 授業科目は、入学年度の学則別表及びコースごとの履修方法を記載した大正大学履修要項に従い履修しなければならない。

2 編入学は、編入学した学年の規定を適用する。

(履修登録)

第3条 授業科目の単位を修得するためには、学期ごとに定める履修登録期間に履修を希望する科目を登録しなければならない。

2 正当な理由により、指定期間内に登録ができない場合は、あらかじめその理由を付して届け出なければならない。

3 大学は、必要に応じて授業科目ごとに定員を設け、抽選等による選抜を行うことがある。

(登録の制限)

第4条 次の各号の一に該当する授業科目は、登録することができない。

(1)既に単位を修得した授業科目

(2)同一時限に開講される授業科目

(3)同一学期内の同一授業科目

(4)配当履修年次以外の授業科目

(登録の修正)

第5条 登録した科目を修正しようとする場合は、学期ごとに定める期間に行わなければならない。

(登録の確定)

第6条 履修登録は、確認表の交付（電子的な申請の場合は、これを確認できる画面）をもって確定する。

(登録の取消)

第7条 大学は、履修登録者数が5名以下の授業科目について原則として休講とし、当該科目的履修登録を取消すものとする。

ただし、次の各号の一に該当する場合は、この限りではない。

(1)外国語の上級科目及び先修制科目の後位科目

(2)第Ⅱ類科目のうち、卒業論文又は卒業研究等に必要不可欠な科目

(3)諸資格を取得するために必要な科目

(制限単位)

第8条 学則第23条第4項に基づく学期ごとに登録できる単位数は、次のとおりとする。

学 部	制限単位	備考(記載の期間ごと)
仏教学部	24	セメスター制
心理社会学部	24	セメスター制
文学部	24	セメスター制
表現学部	12	クオーター制 ただし第3クオーターにあっては10単位とする
地域創生学部	12	
社会共生学部 公共政策学科	12	
社会福祉学科	12	クオーター制

2 制限単位には、第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目の単位を通算する。

3 通年開講科目、年度跨り科目の単位数は、当該科目が開講される年度の学期に等分する。

4 集中講義期間開講科目の単位数は、履修制限単位に含めないものとする。

5 夏期及び春期休業期間中に開講する科目、学長が指定する科目及び第Ⅰ類科目の再履修科目にかかる取扱いについては、別に定める。

6 表現学部、地域創生学部、社会共生学部公共政策学科における第3クオーターの制限単位のうち、4単位分は、第Ⅲ類アントレプレナーシップ育成教育プログラムにかかる科目の対応とする。

(成績評価の基準)

第9条 授業科目の成績評価は、学則第45条の評語で行う。

判定	評語	基 準
合 格	A A	目標を大きく超えて優秀 (Excellent : 秀)
合 格	A	目標を超えて優秀 (Very good : 優)
合 格	B	目標を充分に達成している (Good : 良)
合 格	C	単位を認める最低限の基準に達している (Pass : 可)
不 合 格	D	単位を認める最低限の基準に達していない (Failure : 不可)
不 合 格	Z	学修行動が見られない (No learning : 否)
合 格	T	目標を達成している (Recognition : 認定)

2 学業平均値（以下「GPA」という。）を算出するため、前項の評語に次のとおりポイントを付与する。

評 語	ポ イ ン ト
A A	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0.0
Z	0.0

3 GPAは、履修登録した授業科目の単位数にポイントを乗じた数の総和を履修登録単位数の総和で除したのち小数点第3位以下を切り捨てて算出し、得られたGPAの総合評価は、次のとおりとする。

GPA ($= \alpha$)	総合評価
$3.5 \leq \alpha \leq 4.0$	最優秀
$3.2 \leq \alpha < 3.5$	優
$1.6 \leq \alpha < 3.2$	良
$1.0 \leq \alpha < 1.6$	可

(第Ⅱ類科目として修得した単位の取扱)

第10条 第Ⅱ類科目として修得した単位は、20単位までの範囲で学則第38条第1項第3号の第Ⅲ類科目に替えて卒業に必要な単位に繰り入れることができる。

(他の大学又は大学以外の教育施設等の単位の認定)

第11条 学則第39条の2及び第39条の3により単位を認定する学修は、次のとおりとする。

- (1)課外学習
- (2)協定校の授業科目
- (3)資格試験
- (4)企業等での就業体験

(入学前の既修得単位等の認定)

第12条 学則第39条の4に基づく既修得単位の認定は、学校種及び修得科目を勘案して第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目として包括的に行うものとし、その際の成績評価は、「T」とする。

(留年)

第13条 学則第23条第1項から第3項又は学則第58条に定める基準をそれぞれ満たすことができない場合は、留年とする。

2 第1学年から第3学年の間の同一学年の在学期間は、それぞれ2年（4学期）を限度とし、第1学年から第4学年を通算して8年（16学期）を超えることができない。ただし、編入学生は学則第22条第2項の修業年限のみ適用する。

(退学)

第14条 次の各号の一に該当する場合は、学則第50条第1項第2号により退学とする。

- (1)前条第2項の期間が満了する者
- (2)3学期連続してGPA1.0未満の者

(転学部等)

第15条 他の学部、学科又はコースへの転籍は、収容定員に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

- 2 選考を受けようとする者は、学長に願い出て許可を得なければならない。
- 3 前項の出願資格は、次のとおりとする。
 - (1)出願時に、第1学年又は第2学年に在学中の者
 - (2)他の学部、学科への転籍の場合は、既に進級基準を満たしている者あるいは満たす見込みの者で、出願時のGPAが3.2以上上の者
 - (3)同一学科内の他コースへの変更を希望する場合は、既に進級基準を満たしている者あるいは満たす見込みの者

(改廃)

第16条 この規程の改廃は、代議員会の議を経て、学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 第8条第6項の規定にかかわらず、令和3年3月31日に在籍する者は、従前の例による。

大正大学試験規程

(目的)

第1条 この規程は、大正大学学則第43条による試験の取扱いについて定める。

(試験の種類)

第2条 試験の種類は、授業内試験及び再試験とする。

(授業内試験)

第3条 試験は、原則として学期ごとの授業期間内に各履修科目の授業内で行う。

2 前項の試験は、随時のレポート等に代えることができる。

(再試験)

第4条 再試験は、原則として最終学年に在学する者のうち、実験実習科目を除く卒業に必要な単位数が4単位以内不足かつ当該科目の成績評価がD評価に該当する者に対して実施することができる。

2 再試験実施の可否は、当該学生の所属する学科長の意見を聴取した後、当該学生の履修状況等を踏まえ、教学運営協議会の意見を徵し、学長がこれを決定する。また、当該学科長は、必要に応じて当該科目の担当教員から意見を聴取するものとする。

3 その他、再試験の実施に関して必要な事項は、再試験の都度、教学運営協議会において定める。

第5条 前条第2項による再試験実施の決定を受けた者は、速やかに再試験願（本学所定用紙）を教務課に提出しなければならない。

第6条 再試験を合格した者の受験科目の成績評価は、「C」又は「T」とする。

(試験料)

第7条 再試験を受験する者は、「諸資格課程料等に関する細則」に定める試験料を納入しなければならない。

(試験の方法)

第8条 試験は、筆記試験、レポート試験、実技試験、口述試験又は当該科目の担当教員が指示する方法によって行うものとする。

(試験時間)

第9条 授業内試験及び再試験の試験時間は原則として60分とする。ただし、必要に応じて試験時間を変更して行うことができる。なお、授業内試験においては、1時間の内に授業等学修活動と試験をあわせて執り行うものとする。

(受験資格の欠落事由)

第10条 次の各号の一に該当する者は、第2条の試験を受験することができない。

- (1)試験が行われる学期において、当該科目の履修登録をしていない者
- (2)試験開始後、20分を超えて遅刻した者
- (3)学費を指定期間に内に納入していない者
- (4)休学中の者
- (5)停学中の者

(受験者の義務)

第11条 受験者は、次の各号に定める事項を遵守しなければならない。

- (1)試験監督者又は当該授業担当教員の指示に従うこと
- (2)答案に学籍番号、氏名等を記入すること

(無効答案)

第12条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1)受験者が特定できない場合
- (2)第10条各号の一に該当することが明らかになった場合
- (3)不正行為により解答を得たと認められる場合

(不正行為)

第13条 試験における不正行為は、次の各号の一に該当する行為をいう。

- (1)当該試験において許可されている以外の方法で解答を得たときは
- (2)当該授業の履修登録者以外が履修登録者と偽って受験したときは
- (3)他人の答案又は成果物を複写もしくは盗用したときは

2 前項各号の行為の教唆又は協力も同様の行為と見なす。

(不正行為の確認)

第14条 試験監督又は担当教員が不正行為を認めたときは、速やかに教務部長に報告しなければならない。

- 2 教務部長は、直ちに当該学生が所属する学科の学生生活委員会立会いのもと不正行為の事実確認を行うものとする。
- 3 教務部長は、前項により不正の事実を確認した場合、本人（前条第2項に該当する者がある場合は、これらの者を含む）に始末書を提出させるとともに学部長に報告しなければならない。
- 4 第1項の現認が試験場における試験の場合は、直ちに当該試験の受験を中止させ解答用紙を回収したうえで退場を命ずるものとする。

(不正行為を行った者の処分)

第15条 不正行為を行った者に対しては、当該学期の履修科目すべてを乙評価としたうえで、その処分は懲戒に関する細則によるものとする。

(改廃)

第16条 この規程の改廃は、代議員会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、令和3年8月25日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

大正大学学則 (抜粋)

(修業年限)

第21条 学部の修業年限は、4年（8学期）とする。

(在学年限)

第22条 学生の在学年限は、8年（16学期）を超えることができない。

2 編入学生の在学年限は、4年（8学期）を超えることができない。

(進級)

第23条 入学後1年（2学期）以上在学し、20単位以上修得した者は、第2学年に進級する。

2 第2学年に1年（2学期）以上在学し、62単位以上修得した者は、第3学年に進級する。

3 第3学年に1年（2学期）以上在学し、90単位以上修得した者は、第4学年に進級する。

4 前項までの条件に併せて、各学年及びセメスター又はクォーターごとに、履修単位数の上限を別に定める。

(履修登録)

第41条 学生は、学期の始めに履修しようとする授業科目を登録するものとする。

(試験)

第43条 試験は、授業内等の試験と卒業論文試験又は卒業研究試験とする。

(単位の認定)

第44条 単位認定の基準は、次のとおりとする。本学においては、1単位は標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成するものとし、授業方法ごとの1単位の授業時間数は、原則として次のとおりとする。

(1)講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2)実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(3)1つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本学が定める時間数をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

3 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項各号の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(退学)

第49条 学生が疾病又はその他の理由により退学しようとするときは、所定の様式により、その事由を証明する書類（疾病の場合は診断書）及び学生証を添付して、保証人と連署のうえ願い出なければならない。

2 学年の途中で退学する者は、当該納期分の学費等を納入しなければならない。

第50条 学生が次の各号の一に該当するときは、これを退学させる。

(1)性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2)学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3)正当の理由がなくて出席常でない者

(4)学校の秩序を乱し、その他学生として本分に反した者

2 前項第1号及び第4号による退学は、代議員会の議を経て学長が決定する。

3 第1項第2号及び第3号による退学は、学長が決定する。

(除籍)

第51条 学生が次の各号の一に該当するときは、これを除籍する。

(1)定める期間内に学費を納入しない者

(2)学則第22条に定める期間に卒業できない者

(3)学則第46条第2号に定める休学期間を超えてなお復学できない者

(4)死亡した者

2 前項による除籍は、学長が決定する。

3 第1項第1号による除籍は、学期ごとに行う。

4 前項の定めにかかわらず、第74条による延納許可を受けた者が、延納期限日までに当該学費等を納入しない場合は、当該期限日の翌日をもって除籍する。

5 第1項第1号により除籍された者は、除籍日より15日以内に除籍の取消しを願い出ることができる。

6 第1項第4号の死亡した者の除籍日は、死亡した日とする。

第52条 除籍となった者は、退学を願い出ることはできない。

(卒業)

第58条 本学に4年（8学期）以上在学し、各学科の定めるところにより次のとおり卒業要件を満した者には学士の学位を授与する。

学部・学科	単位数	(科目分類の要件)
仏教学部	124単位	
心理社会学部		第I類科目 30単位
文学部		第II類科目 70単位以上
表現学部		第III類科目 24単位以上
地域創生学部		
社会共生学部 公共政策学科		
社会共生学部	136単位	第I類科目 30単位
社会福祉学科		第II類科目 82単位以上
		第III類科目 24単位以上

2 卒業の時期は、学年の終わりとする。ただし、学年の途中においても、学期の区分に従い、学生を卒業させることができる。

(懲戒)

第61条 本学に在籍する者で本学の学則及び規則に違反し、又は学生の本分にもとり、本学の名誉を毀損する行為ある者及び成業の見込みのない者は、代議員会の議を経て学長がこれを懲戒する。

第62条 懲戒は謹責、謹慎、停学及び退学とする。

あとがきに代えて

本学は大正15年に設立され、数々の分野で実績を残してきました。

新しい世紀を迎えたが、本学設立の精神は、時代が移り変わってどんな社会状況となつても永久に不動のものと確信しています。

ここに初代学長の建学のことばの抜粋を掲げ、その意図するところを学生のみなさんとともに探究していきたいと思います。

建学のことばより

新たに生れ出た大正大学には宗教的敬虔の心持に、大乗仏教的精神を力強く發揮させねばならぬと考えます。教授・講師は申すまでもなく、学生も知識否、智慧の熱愛者であり、謙遜真摯の態度を以て真理を求めて已まざるものであつてほしい。道徳と道理の前には極めて従順であると共に、悪と非理に対しては一歩も屈せざる勇気が溢れることを望みます。必ずしも神秘とは言わない不思議とは申しませんが、何となく聖く儼かな靈的な雰囲気が学内に漂って居って、来つて此学園に学ぶ者を薰化し感化するものがあればと存じます。近世世界の文明国を通して自我の覚醒を見んとするは貴ぶべきことありますが、自己個人の小なる権利、それは仏祖が極力呵責し給いし、我欲我執を滔々として主張する風ある間に立ちて、あくまで利他を念として忘れないようにありたいと存じます。

率直に自己の過失罪惡を懺悔すると共に、本来具する仮性を開顯して、人格の完成に猛然と精進することを望んでおります。少なくとも善を贊美する優しい心と惡に近づかない猛き氣を持ちたいと存じます。かかる願望を一歩一歩満足し行く所に本大学存在の意義が明らかにされるものと信じます。

大正15年11月5日 創立記念式典にて
初代学長 澤柳 政太郎

2023年度 入学者用 履修要項

2023年4月1日発行

編集：大正大学 教務課



TAISHO
UNIVERSITY



学籍番号								
氏名								